

Honeywell

Hyperion 1300g

General Purpose Handheld Linear Scanner

ユーザーズガイド

免責事項

Honeywell International Inc.（以下、ハネウエル）は、本書に記載された仕様およびその他の情報を事前に断り無く変更することがあります。何らかの変更の有無を確認するときは、かならずハネウエル社にお問い合わせください。本書の情報について、ハネウエル社では一切の保証をいたしません。

本書に技術的または編集上の誤りや記載漏れがあった場合、また本書の内容の保管、実施、あるいは使用の結果生じた事故や損害については、ハネウエルでは一切の責任を負いません。

本書には著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象となります。本書のどの部分も、ハネウエルの文書による事前承諾を得ずに複製、編集、または多言語への翻訳を行うことはできません。

© 2011 Honeywell International Inc. All rights reserved.

本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

ウェブアドレス: www.honeywellaidc.com

Microsoft® Windows®ならびに Windows ロゴは Microsoft Corporation の商標または登録商標です。本書に記載されたその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を有しています。

製品のコンプライアンス情報

アメリカ

FCC パート 15 サブパート B クラス B 適合

この装置は FCC 規制のパート 15 に適合しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

この装置は、FCC 規制のパート 15 に準拠するクラス B デジタル機器に対する制限に適合することがテストで確認されています。これらの制限は、居住地域に設置したときに妨害を適切に防止できるように設定されています。この装置はラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、また場合によって放射します。指示通りに設置して使用しなければ、ラジオ受信を妨害することがあります。ただし、個々の設置例で妨害が起きないという保証はありません。この装置がラジオやテレビ受信への妨害の原因になった場合、妨害しているかどうかは装置の有効／無効にて確認可能です。使用者は以下の対策を一つまた複数試して妨害を解消してください。

- 受信アンテナの方向または位置を変える。
- 装置と受信機の間を離す。
- 装置を受信機とは別の回路のコンセントに接続する。
- 販売店あるいは経験のあるラジオ・テレビ技術者に相談する。

警告： ハネウェルから明確に認可されていない変更や修正を機器に対して行った場合、この機器の操作に対する FCC の認証が無効になることがあります。

注意： EMC 規制への準拠を維持する為に、本機器にはシールド済のケーブルを使用してください。本機器は、3m 未満のケーブルで試験を行っています。3m 超のケーブルを使用した場合、クラス B に適合しない可能性がありますので、ご注意ください。

UL について

UL 60950-1、2nd Edition I.T.E. 製品安全規格に準拠しています。

注意： 指定された有限電源供給ユニット（LPS）、または 5~5.2VDC 1A の出力を備えたクラス 2 タイプの電源供給ユニットを使用してください。

カナダ

Industry Canada ICES-003

このクラス B デジタル装置は Canadian ICES-003 に対応しており、動作は次の二つの条件を満たしています。

1. 妨害を引き起こさない。
2. 好ましくない動作の原因となる干渉を含め、受けたあらゆる妨害に耐える。

注意：EMC 規制への準拠を維持する為に、本機器にはシールド済のケーブルを使用してください。本機器は、3m 未満のケーブルで試験を行っています。3m 超のケーブルを使用した場合、クラス B に適合しない可能性がありますので、ご注意ください。

注意：指定された有限電源供給ユニット (LPS)、または 5~5.2VDC 1A の出力を備えたクラス 2 タイプの電源供給ユニットを使用してください。

Conformité à la réglementation canadienne

Cet appareil numérique de la Classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada. Son fonctionnement est assujéti aux conditions suivantes :

1. *Cet appareil ne doit pas causer de brouillage préjudiciable.*
2. *Cet appareil doit pouvoir accepter tout brouillage reçu, y compris le brouillage pouvant causer un fonctionnement indésirable.*

cUL について

CSA C22.2 No.60950-1-07、2nd Edition I.T.E. 製品安全規格に適合しています。

ヨーロッパ

CE 製品についている CE マークは、EN55022 CLASS B、EN55024、EN61000-3-2、EN61000-3-3 基準による 2004/108/EC EMC Directive に適合していることを示しています。また、推奨される電源で出荷されている場合は 2006/95/EC Low Voltage Directive に適合します。

詳細については、下記にお問い合わせください。

Honeywell Imaging & Mobility Europe BV
Nijverheidsweg 9-13
5627 BT Eindhoven
The Netherlands

ハネウェルは、当社の製品が CE マークの無い、Low Voltage Directive に適合しない機器（電源装置、パーソナルコンピュータなど）と使用された場合の一切の責任を負いません。

廃電気電子機器指令について

ハネウエル製品は 2003 年 1 月 27 日の廃電気電子機器（WEEE）指令、2002/96/EC OF THE EUROPEAN PAR-LIAMENT AND OF THE COUNCIL に適合しています。

この製品は製造につき、天然資源の抽出と使用を求められています。適切に処理しなければ、健康に影響を及ぼすおそれのある有害物質が含まれている場合があります。

有害物質が環境に散布されないよう、また天然資源に対する圧力を軽減するため、製品の廃棄には適切な回収システムを利用されることをお勧めします。そのような回収システムでは、安全な方法で廃棄される製品のほとんどの材料が再使用またはリサイクルされます。



車輪付きゴミ箱にバツ印がついた記号は、製品を都市ゴミとともに廃棄してはならないことを示すものであり、製品の廃棄には適切な分別回収システムの利用が望まれるものです。

収集、再使用、およびリサイクルの各システムの詳細が必要な場合は、地方自治体の廃棄物管理局にお問い合わせください。

また、この製品の環境パフォーマンスの詳細については、購入先にお問い合わせください。

ドイツ



ます。

お使いの製品に GS マークが付いている場合は、その製品が GS 認証を受けていることを示してい

ロシア



オーストラリア/ニュージーランド

C-Tick



AS/NZS 3548 EMC の要件に合致しています。

メキシコ



NOM-019 に合致しています。

韓国



台湾



BSMI Standard: CNS13438, CNS14336

依據標準 : CNS13438, CNS14336

全世界

LED 安全声明

試験の結果、IEC62471:2006に従って、この装置は「免除されたリスクグループ」に分類されました。

CB スキーム

IEC60950-1 Second Edition I.T.E. Product Safety に適合しています。

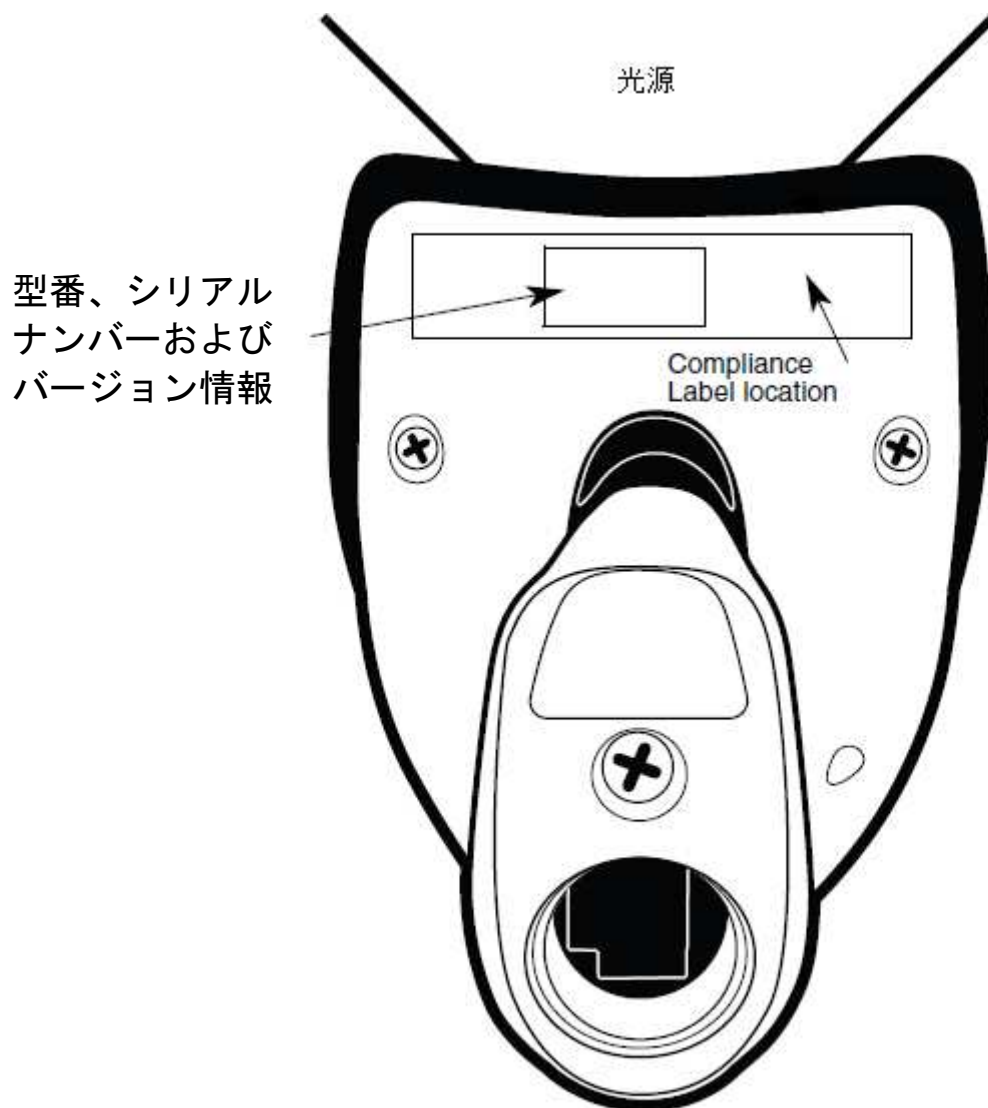
防塵防水

本装置は EN60259 に従って試験されており、IP41 に相当します。外部粒子と水滴に対して耐性があります。

特許

特許の一覧については、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com/patents) をご覧下さい。

必要とされる安全ラベル位置



目次

はじめに.....	1-1
本書について	1-1
製品の開梱.....	1-1
USB での接続.....	1-1
キーボードウェッジでの接続.....	1-2
RS232C シリアルポートでの接続	1-3
RS485 での接続	1-4
読み取り方法	1-5
メニューバーコードのセキュリティ設定.....	1-5
製品の標準初期設定	1-5
インターフェースの設定	2-1
はじめに	2-1
インターフェースの設定 - プラグアンドプレイ	2-1
キーボードウェッジ	2-1
ノート型 PC との直接接続.....	2-1
RS232C シリアルポート.....	2-2
RS485.....	2-3
OPOS モード	2-4
USB IBM SurePos.....	2-5
パソコン USB もしくは Macintosh のキーボード	2-6
USB HID.....	2-6
USB シリアルコマンド	2-6
CRT/RTS エミュレーション.....	2-7
ACK/NAK モード.....	2-7
国別キーボード	2-8
キーボードウェッジスタイル.....	2-10
キーボードの設定	2-12
RS232C の設定	2-13
RS232C ボーレート.....	2-13
RS232 ワード長: データビット、ストップビット、パリティ	2-14
RS232 ハンドシェイキング	2-15
RTS/CTS.....	2-15
XON/XOFF.....	2-15
ACK/NAK	2-16
入力/出力設定	3-1
読み取り成功時の表示.....	3-1
ブザー - 読み取り成功時	3-1
ブザー音量 - 読み取り成功時.....	3-1
ブザーの音程 - 読み取り成功時	3-2
ブザーの長さ - 読み取り成功時	3-2
ブザー音 - エラー時	3-3
LED - 読み取り成功時	3-3
ブザー音の回数 - 読み取り成功時	3-3
読み取り成功時のディレー (間隔)	3-4
ユーザー指定のディレー (間隔)	3-4
トリガーモード	3-5
マニュアル/シリアルトリガー	3-5
読み取りタイムアウト	3-5
自動トリガー.....	3-5
プレゼンテーションモード.....	3-6
連続照明モード.....	3-6

ハンズフリータイムアウト	3-6
同一シンボル再読み取り時のディレー（間隔）	3-7
ユーザー指定による再読み取り時のディレー（間隔）	3-7
センタリング	3-8
アウトプットシーケンス - 概要	3-9
アウトプットシーケンスを要求する	3-9
アウトプットシーケンスの追加	3-9
その他のプログラミングシーケンス	3-10
アウトプットシーケンスエディタ	3-10
アウトプットシーケンスの要求	3-10
アウトプットシーケンスの例	3-11
マルチプルシンボル	3-12
No Read	3-13
ビデオリバーズ - 色反転バーコード	3-13
データの編集	4-1
プリフィクス/サフィックスの概要	4-1
プリフィクスまたはサフィックスの追加方法	4-2
1つまたはすべてのプリフィクス・サフィックスの削除	4-2
キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加する	4-3
プリフィクスの選択	4-3
サフィックスの選択	4-3
ファンクションコードの転送	4-4
キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間のディレー（間隔）	4-4
キャラクタ間のディレー（間隔）	4-4
ユーザー指定によるキャラクタ間のディレー（間隔）設定	4-5
ファンクション間のディレー（間隔）	4-5
メッセージ間のディレー（間隔）	4-6
データフォーマット	5-1
データフォーマットエディタについて	5-1
データフォーマットの追加	5-2
その他のプログラミング	5-3
ターミナル ID 表	5-3
データフォーマットエディタのコマンド	5-4
送信コマンド	5-4
移動コマンド	5-5
検索コマンド	5-5
その他のコマンド	5-6
データフォーマットエディタ	5-7
データフォーマッタ	5-7
シンボル	6-1
はじめに	6-1
すべてのシンボル	6-2
読み取り桁数	6-2
Codabar	6-3
Codabar の有効/無効	6-3
Codabar スタート/ストップキャラクタ	6-3
Codabar チェックキャラクタ	6-4
Codabar の連結	6-5
Codabar の読み取り桁数	6-5
Code 39	6-6
Code 39 の有効/無効	6-6
Code 39 スタート/ストップキャラクタ	6-6
Code 39 チェックキャラクタ	6-7
Code 39 読み取り桁数	6-7

Code 39 の連結.....	6-8
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	6-8
Full ASCII	6-9
Code 39 コードページ	6-10
Interleaved 2 of 5 (ITF).....	6-11
Interleaved 2 of 5 (ITF) の有効/無効	6-11
チェックデジット	6-11
Interleaved 2 of 5 (ITF) の読み取り桁数	6-12
Code 93	6-13
Code 93 有効/無効	6-13
Code 93 読み取り桁数	6-13
Code 93 コードページ	6-13
Straight 2 of 5 Industrial (3 バースタート/ストップ)	6-14
Straight 2 of 5 Industrial 有効/無効.....	6-14
Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数	6-14
Straight 2 of 5 IATA (2 バースタート/ストップ)	6-15
Straight 2 of 5 IATA 有効/無効	6-15
Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数	6-15
Matrix 2 of 5.....	6-16
Matrix 2 of 5 有効/無効	6-16
Matrix 2 of 5 読み取り桁数.....	6-16
Code 11	6-17
Code 11 有効/無効	6-17
チェックデジットの要求.....	6-17
Code 11 読み取り桁数	6-17
Code 128.....	6-18
Code 128 有効/無効	6-18
ISBT 128 連結機能.....	6-18
Code 128 読み取り桁数	6-19
Code 128 コードページ	6-19
Code 128 ファンクションコードの送信.....	6-19
Telepen.....	6-20
Telepen 有効/無効.....	6-20
Telepen の出力	6-20
Telepen 読み取り桁数.....	6-21
UPC A.....	6-22
UPC A 有効/無効.....	6-22
UPC A チェックデジット	6-22
UPC A システム番号.....	6-23
UPC A 追加デジット.....	6-23
UPC A 追加デジットの要求.....	6-24
UPC A 追加デジットセパレーター	6-24
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13	6-24
UPC E.....	6-25
UPC E0 および UPC E1 有効/無効.....	6-25
UPC-E0 および UPC E1 の拡張.....	6-26
UPC E0 および UPC E1 追加デジットの要求.....	6-26
UPCE0 および UPC E1 追加デジットセパレーター	6-27
UPC E0 チェックデジット	6-27
UPC E0 システム番号.....	6-28
UPC E0 追加デジット.....	6-28
EAN/JAN 13	6-29
EAN/JAN 13 有効/無効.....	6-29
EAN/JAN 13 チェックデジット	6-29
EAN/JAN 13 追加デジット	6-30

EAN/JAN 13 追加デジットの要求	6-30
EAN/JAN 13 追加デジットセパレータ	6-31
ISBN の変換	6-31
EAN/JAN 8	6-32
EAN/JAN 8 有効/無効	6-32
EAN/JAN 8 チェックデジット	6-32
EAN/JAN 8 追加デジット	6-33
EAN/JAN 8 追加デジットの要求	6-33
EAN/JAN 8 追加デジットセパレータ	6-33
MSI	6-34
MSI 有効/無効	6-34
MSI チェックキャラクタ	6-34
MSI 読み取り桁数	6-35
Plessey Code	6-36
Plessey Code 有効/無効	6-36
Plessey Code 読み取り桁数	6-36
GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル)	6-37
GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル) 有効/無効	6-37
GS1 データバー限定型 (リミテッド)	6-37
GS1 データバー限定型 (リミテッド) 有効/無効	6-37
GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド)	6-38
GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド) 有効/無効	6-38
GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド) 読み取り桁数	6-38
China Post Code (中国郵便コード)	6-39
China Post Code (中国郵便コード) 有効/無効	6-39
China Post Code (中国郵便コード) 読み取り桁数	6-39
Korea Post Code (韓国郵便コード)	6-40
Korea Post Code (韓国郵便コード) 有効/無効	6-40
Korea Post Code (韓国郵便コード)	6-40
Codablock F	6-41
Codablock F 有効/無効	6-41
Codablock F 読み取り桁数	6-41
Code 49	6-42
Code 49 有効/無効	6-42
Code 49 読み取り桁数	6-42
Trioptic Code	6-43
GS1 エミュレーション	6-43
Label Code	6-44
インターフェースキー	7-1
キーボードの機能	7-1
対応するインターフェースキー	7-3
対応するインターフェースキー	7-4
ユーティリティ	8-1
すべてのシンボルにコード ID プリフィクスを一時的に追加	8-1
ソフトウェア番号の表示	8-1
データフォーマットの表示	8-1
標準製品初期設定へリセット	8-2
EZConfig について	8-2
EZConfig の操作	8-2
Scan Data (データの読み取り)	8-2
Configure (設定)	8-2
ウェブサイトから EZConfig をインストールする	8-3
シリアルプログラミングコマンド	9-1
記述上の語句	9-1

メニューコマンドシンタックス（構文）	9-1
質問コマンド	9-2
複数コマンドの連結機能	9-2
レスポンス	9-2
質問コマンドの例	9-3
トリガーコマンド	9-4
標準製品初期設定へのリセット	9-4
メニューコマンド	9-5
製品仕様	10-1
Hyperion 1300g 製品仕様	10-1
標準ケーブルのピン配列	10-2
キーボードウェッジ	10-2
シリアル出力	10-3
USB	10-4
メンテナンス	11-1
修理	11-1
メンテナンス	11-1
機器の清掃	11-1
ケーブルとコネクタの点検	11-1
コード付きスキャナケーブル交換	11-2
インターフェースケーブルの交換	11-2
トラブルシューティング	11-2
カスタマーサポート	12-1
テクニカルサポート	12-1
オンラインでの製品サービス、修理およびテクニカルサポート	12-2
製品サービスと修理	12-2
条件付保証	12-3
補足資料	A-1
シンボルチャート	A-1
ASCII 変換チャート（コードページ 1252）	A-2
印刷されたバーコードのコードページマッピング	A-5

はじめに

本書について

本書では Hyperion 1300g の設置と設定の手順について説明しています。また、製品の仕様、外形寸法、保証内容、およびカスタマーサポートに関する情報も含まれています。

ハネウェルのバーコードスキャナは工場出荷時に最も一般的な端末および通信装置に合わせて設定されています。設定変更が必要な場合は、本書記載のバーコードを読み取ってください。

アスタリスク(*)がついているオプションは工場出荷時の設定を示しています。

製品の開梱

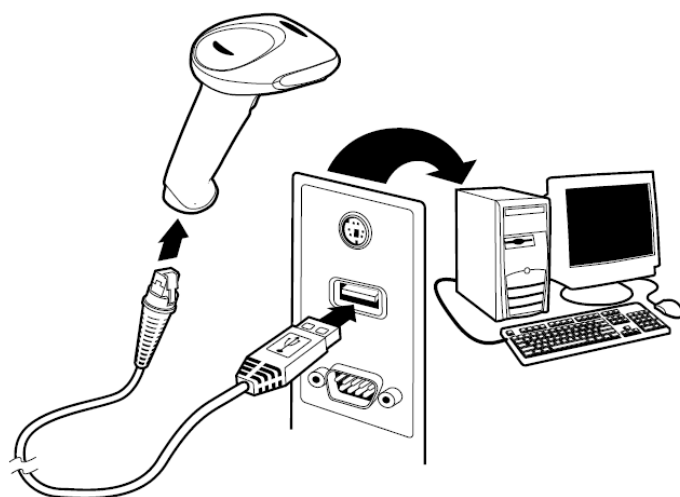
梱包箱開封後は、以下の手順に従ってください。

- 出荷時の損傷がないか、確認します。損傷があった場合は、すみやかに配送した運送会社へ連絡してください。
- 箱の中身に間違いがないか確認します。
- 返却もしくは保管用に、梱包箱はそのまま保管ください。

USB での接続

スキャナをホストシステムの USB ポートに接続できます。

1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続し、次にホストシステムと接続します。
2. スキャナが音を鳴らします。



本書記載のサンプルバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。

その他の USB 設定および技術的情報につきましては、弊社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) の「USB Application Note」を参照してください。

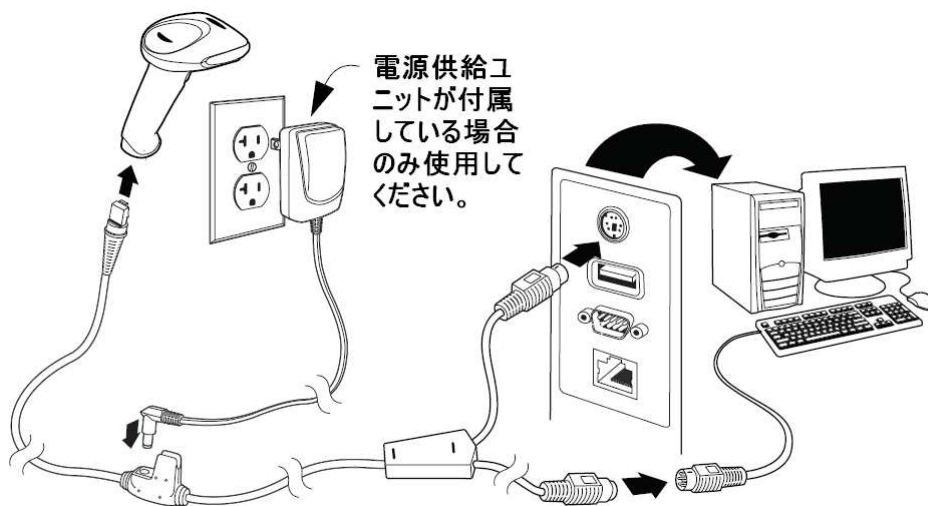
キーボードウェッジでの接続

スキャナはキーボードとホストシステムの間を「キーボードウェッジ」¹として接続されるほか、シリアルポートとの接続や携帯情報端末への接続も可能です。

以下はキーボードウェッジ接続の一例です。

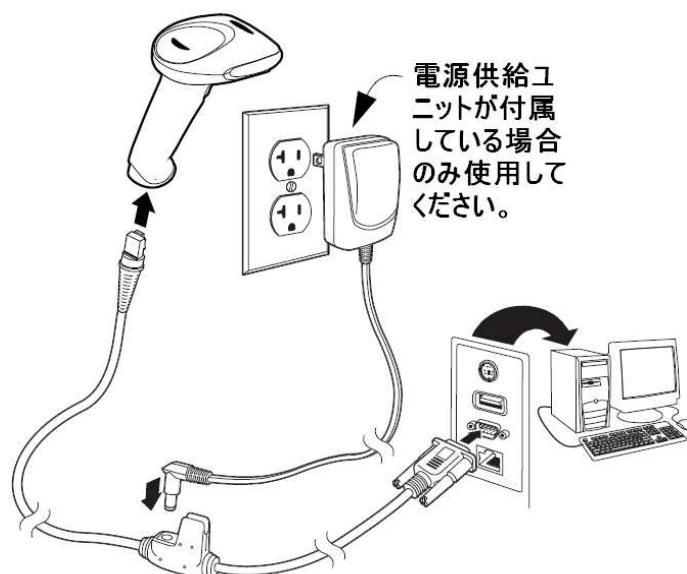
1. ホストシステムの電源をオフにし、裏側のキーボードケーブル接続をはずします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続し、次にホストシステムに接続します。
3. ホストシステムの電源をオンにします。スキャナが音を鳴らします。
4. 本書記載のサンプルバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。スキャナが1回音を鳴らします。

お使いのスキャナは、アメリカキーボード対応のIBM PC ATとキーボードウェッジインターフェース用に設定されています。バーコードデータにはキャリッジリターン（CR）サフィックスが追加されます。



RS232C シリアルポートでの接続

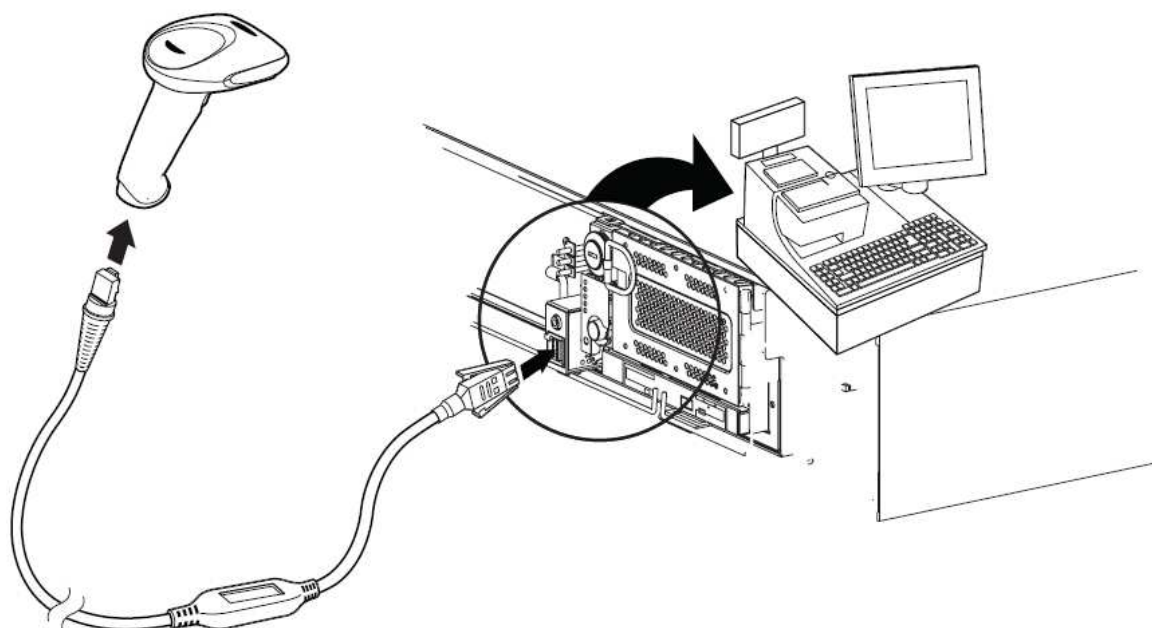
1. ホストシステムの電源をオフにします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。
3. 今度はインターフェースケーブルのシリアルコネクタをホストシステムのシリアルポートに差し込みます。2本のネジを締めてコネクタをポートに固定します。
4. スキャナもしくは通信ベースの接続が完了したら、コンピュータの電源を入れます。
5. 本装置は初期設定時、ボーレート 38,400、データビット 8、パリティなし、ストップビット 1 に設定されています。



RS485 での接続

スキャナは IBM POS 端末と接続できます。

1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続し、次にホストシステムに接続します。
2. ホストシステムの電源をオンにします。スキャナが音を鳴らします。
3. 本書記載のサンプルバーコードを読み取り、スキャナの動作を確認してください。スキャナが1回音を鳴らします。
4. RS485 の設定については、[ページ 2-3](#) を参照してください。



読み取り方法

スキャナには、スキャナの横方向の視界に相当する明るい赤のエイミングビームを照射します。エイミングビームはバーコードの中央に合わせてください。エイミングビームをそれ以外の方向に傾けると、バーコードを読み取ることができません。



大半のバーコードは、スキャナから 12.7cm の地点が最適焦点となっています。1つのページまたは物体に貼付された1つまたは複数のバーコードを読み取るには、目標から適切な距離を保ってスキャナを持ち、トリガーを引いて、エイミングビームをバーコードの中央に当ててください。

メニューバーコードのセキュリティ設定

ハネウェルのスキャナ製品はメニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドを送ることで設定を変更することができます。メニューコードの読み取りを制限したい場合は、メニューバーコードのセキュリティ設定を使用してください。詳しくは、お近くのテクニカルサポートオフィス（[ページ 12-1](#)の『テクニカルサポート』参照）に連絡してください。

製品の標準初期設定

お使いのスキャナの設定状態が判らない場合や、設定変更後にスキャナを工場出荷時初期設定へ戻したい場合は、下記の標準製品初期設定を読み取ります。

9-5 ページ以降に、各コマンドの工場出荷時初期設定値が記載されており、*（アスタリスク）で示されています。



DEFAULT.

Standard Product Default Settings
(標準製品初期設定)

インターフェースの設定

はじめに

この章では、インターフェースに合わせてシステムを設定する方法を紹介します。

インターフェースの設定 – プラグアンドプレイ

一般的に広く使用されているインターフェースは、プラグアンドプレイバーコードを読み取るだけで簡単に設定することができます。

注意：バーコードを読み取った後は、ホストシステムのインターフェースを有効にするため、再起動してください。

キーボードウェッジ

ご使用のシステムを IBM PC AT 互換機 や、アメリカ向けのキーボードと互換性のあるキーボードウェッジインターフェースで設定する場合は、以下のバーコードを読み取ってください。キーボードウェッジは初期設定時のインターフェースです。

注意：以下のバーコードは、キャリッジリターン (CR) サフィックスも設定します。



PAP_AT.

IBM PC AT and Compatible with CR suffix
(IBM の PC または互換機の PS2 接続 CR サフィックス付き)

ノート型 PC との直接接続

ほとんどのノート型 PC の場合、Laptop Direct Connect バーコードを用いれば、内蔵キーボードとの同時操作が可能になります。以下の Laptop Direct Connect バーコードを設定すると、ターミナル ID を 03 とし、キャリッジリターン (CR) サフィックスと外付けキーボード ([ページ 2-10](#) 『キーボードウェッジスタイル』) の使用を有効にします。



PAPLTD.

Laptop Direct Connect with CR suffix
(ノート PC へ直接接続 CR サフィックス付き)

RS232C シリアルポート

RS232 Interface バーコード は、パソコンもしくは端末のシリアルポートとの接続に用います。以下の **RS232 Interface** バーコード もキャリッジリターン (CR) やラインフィード (LF) サフィックス、ならびに以下で示されるようなボーレートやデータフォーマット設定を行います。

項目	設定値
ボーレート	38,400bps
データフォーマット	8 データビット、パリティなし、1 ストップビット



PAP232.

RS232C Interface
(RS232C インターフェース)

RS485

以下の「プラグアンドプレイ」コードのうち一つを読み取り、IBM POS 端末インターフェースに合わせて、スキヤナの設定を行ってください。

注意：バーコードを読み取った後は、ホストシステムのインターフェースを有効にするため、再起動してください。



IBM Port 5B Interface
(IBM ポート 5B インターフェース)



IBM Port 9B HHBCR-1 Interface
(IBM ポート 9B HHBCR-1 インターフェース)



IBM Port 17 Interface
(IBM ポート 17 インターフェース)



IBM Port 9B HHBCR-2 Interface
(IBM ポート 9B HHBCR-2 インターフェース)

上記の各バーコードは以下のそれぞれのシンボルへのサフィックスを設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code 128*	00 0A 0B
UPC E	0A	Code 128**	00 18 0B

* IBM 4683 Port 5B、IBM 4683 Port 9B、HHBCR-1、ならびに IBM 4683 Port 17 インターフェース用の Code 128 に設定されています。

** IBM 4683 Port 9 HHBCR-2 インターフェース Code 128 用に設定されています。

OPOS モード

以下のバーコードは、スキャナを OPOS（OLE for Retail Point of Sale）に設定し、下記の OPOS に関連した設定を行います。

項目	設定値
インターフェース	RS232C
ボーレート	38,400
RS232C ハンドシェーキング	フロー制御、タイムアウト無し
	XON/XOFF 無効
	ACK/NAK 無効
データビット、ストップビット、パリティ	8 データビット、1 ストップビット、パリティ無し
プリフィクス/サフィックス	すべてのプリフィクスおよびサフィックスを削除
	すべての Code ID および AIM ID サフィックスを追加
	CR サフィックスを追加
キャラクタ間のディレー（間隔）	無効
シンボル	チェックデジットおよびナンバーシステム付き UPC-A を許可
	チェックデジット付き UPC-E0 を許可
	チェックデジット付き EAN/JAN-8 を許可
	チェックデジット付き EAN/JAN-13 を許可
	Code 128 を許可
	Code 39 を許可
	自動無効オフ付き OPOS を許可



PAPOPS.
OPOS Mode
(OPOS モード)

USB IBM SurePos

以下の「プラグアンドプレイ」コードのうち一つを読み取り、IBM SurePos (USB ハンドヘルドスキャナ) インターフェースのスキャナ設定を行ってください。

注意：バーコードを読み取った後は、ホストシステムのインターフェースを有効にするため、再起動してください。



PAPSPH.

USB IBM SurePOS
(IBM SurePOS USB ハンドヘルドスキャナインターフェース)



PAPSPT.

USB IBM SurePOS
(IBM SurePOS USB 卓上スキャナインターフェース)

上記の各バーコードはそれぞれのシンボルに対するサフィックスも設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code 39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code 128*	00 18 0B
UPC E	0A	Code 128**	00 0A 0B

* IBM 4683 Port 5B、IBM 4683 Port 9B、HHBCR-1、ならびに IBM 4683 Port 17 インターフェース用の Code 128 に設定されています。

** IBM 4683 Port 9 HHBCR-2 インターフェース Code 128 用に設定されています。

パソコン USB もしくは Macintosh のキーボード

以下のコードのうち一つを読み取り、パソコンの USB キーボードもしくはマッキントッシュの USB キーボードとのスキャナ設定を行ってください。これらのコードを読み取ると、CR ならびに LF も追加されます。



PAPER124.

USB Keyboard (PC)
(PC USB キーボード)



TRMUSB134.

USB Japanese Keyboard
(PC USB 日本語キーボード)



PAPER125.

USB Keyboard (Mac)
(Mac USB キーボード)

USB HID

以下のコードを読み取り、USB HID バーコードスキャナのスキャナ設定を行ってください。



PAPER131.

USB HID Barcode Scanner
(USB HID バーコードスキャナ)

USB シリアルコマンド

以下のコードを読み取り、標準の RS232 ベースの COM Port にエミュレートするようスキャナを設定してください。Microsoft® Windows® のパソコンを使用している場合は弊社のウェブサイト (www.honeywellaidc.com) からドライバをダウンロードする必要があります。このドライバには空いている COM Port 番号を用います。Apple® Macintosh コンピュータはスキャナを USB CDC クラスデバイスと見なし、クラスドライバを自動的に用います。

以下のバーコードは、キャリッジリターン (CR) およびラインフィード (LF) サフィックスも設定します。



PAPER130.

USB Serial Emulation
(USB シリアルエミュレーション)

注意：追加の設定（例：ボーレート）は必要ありません。

CRT/RTS エミュレーション



CTS/RTS Emulation On
(CTS/RTS エミュレーション 有効)



*** CTS/RTS Emulation Off**
(CTS/RTS エミュレーション 無効)

ACK/NAK モード



ACK/NAK Mode On
(ACK/NAK モード有効)



*** ACK/NAK Mode Off**
(ACK/NAK モード無効)

国別キーボード

以下から該当する国コードを読み取り、自国もしくは自言語用のキーボードを設定します。原則として、以下の記号をサポートしますが、米国以外の国では特別な留意が必要です。

@ | \$ # { } [] = / ' \ < > ~



KBDCTY0.

*** United States**
(アメリカ)



KBDCTY1.

Belgium
(ベルギー)



KBDCTY8.

Denmark
(デンマーク)



KBDCTY2.

Finland
(フィンランド)



KBDCTY3.

France
(フランス)



KBDCTY4.

Germany/Austria
(ドイツ/オーストリア)



KBDCTY7.

Great Britain
(イギリス)



Norway
(ノルウェー)



Switzerland
(スイス)



Italy (イタリア)



Spain
(スペイン)



Japan ASCII
(日本語 ASCII)

国別キーボードの対応情報および適用されるインターフェースについては、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) をご参照ください。上記以外のキーボードを設定する必要がある場合は、下の **Program Keyboard Country** バーコードを読み取った後、裏表紙にある該当国の数値バーコードを読み取り、次に **Save (保存)** バーコードを読み取ります。



Program Keyboard Country
(国別キーボードを設定する)

キーボードウェッジスタイル

Caps Lock や Shift Lock など、キーボードのスタイルを設定します。

初期設定値=Regular (レギュラー)

Caps Lock キーがオフの場合は、**Regular** を使用します。



KBDSTY0.

* **Regular (レギュラー)**

Caps Lock キーが有効の場合は **Caps Lock** を使用します。



KBDSTY1.

Caps Lock
(**Caps ロック**)

Shift Lock キーが有効の場合は、**Shift Lock** を使用します (アメリカ キーボードでは通常使用しません。)



KBDSTY2.

Shift Lock (Shift ロック)

Caps Lock キーのオン/オフを切り換える場合は、**Automatic Caps Lock** を使用します。Caps Lock キーをオン/オフすると、ソフトウェアが検出・確認して自動的に対応します。

この設定を使用できるのは、Caps Lock の状態を確認する LED があるシステム (AT キーボード) の場合のみです。



KBDSTY6.

Automatic Caps Lock
(**自動 Caps ロック**)

Caps Lock の切り換えに Caps Lock キーを使用できない国 (ドイツやフランスなど) では **Autocaps via NumLock** のバーコードを読み取ります。NumLock オプションは、通常の Autocaps と同じ働きをしますが、Caps Lock の現在の状態を確認するには、NumLock を使用します。



KBDSTY7.

Autocaps via Numlock
(**Num ロック経由で Autocaps**)

外付けキーボード(IBM AT または互換機)を使用していない場合は、**Emulate External Keyboard** を読み取ります。



KBDSTY5

Emulate External Keyboard
(外付けキーボードエミュレーション)

注意：バーコードを読み取った後は、ホストシステムのインターフェースを有効にするため、再起動してください。

キーボードの設定

ここでは、CTRL+ ASCII コードといった特別なキーボード機能の設定を行います。

Control + ASCII Mode On: 00~1F の値について、ASCII 制御キャラクタ用にキーを組み合わせで送信します。Windows は推奨モードで、すべてのキーボードの国別コードに対応しています。DOS モードはレガシーモードであり、すべてのキーボードの国別コードに対応していません。初めて使用する場合は、Windows モードを使用してください。CTRL+ ASCII の値については、[ページ 7-1](#) の『キーボードの機能』を参照してください。

初期設定値 = Off



KBDCAS2

Windows Mode Control + ASCII Mode On
(ウィンドウズモード Ctrl + ASCII モード有効)



KBDCAS0

*** Control + ASCII Mode Off**
(Ctrl + ASCII モード無効)



KBDCAS1

DOS Mode Control + ASCII Mode On
(DOS モード Ctrl + ASCII モード有効)

Numeric Keypad Mode: テンキーで入力したように数字を送信します。

初期設定値 = Off



KBDNPS1

Numeric Keypad Mode On
(数字キーパッドモード 有効)



KBDNPS0

*** Numeric Keypad Mode Off**
(数字キーパッドモード 無効)

Automatic Direct Connect Mode: IBM AT 型のターミナルを使用し、システムでキャラクタの読み落としがある場合に使用できます。

初期設定 = Off



KBDADC1

Automatic Direct Connect Mode On
(自動直接接続モード有効)



KBDADC0

*** Automatic Direct Connect Mode Off**
(自動直接接続モード無効)

RS232C の設定

RS232C ボーレート

スキャナからターミナルに指定の速度でデータを送信します。ホストターミナルはスキャナと必ず同じボーレートに設定してください。

初期設定値 = 38,400



232BAD0.

300



232BAD2.

1200



232BAD4.

4800



232BAD6.

19200



232BAD8.

57600



232BAD1.

600



232BAD3.

2400



232BAD5.

9600



232BAD7.

*** 38400**



232BAD9.

115200

RS232 ワード長: データビット、ストップビット、パリティ

Data Bits (データビット) はワード長をキャラクタあたり7または8データビットに設定します。アプリケーションで必要なのが ASCII Hex キャラクタの 0~7F (文字、数値、句読点) だけの場合は、7データビットを選択してください。フルセットの ASCII キャラクタを使用するアプリケーションの場合は、キャラクタあたり8データビットを選択します。

初期設定値 = 8

Stop Bits (ストップビット) は1または2に設定します。

初期設定値 = 1

パリティはキャラクタビットパターンが適正かどうかをチェックします。

初期設定値 = None (なし)



232WRD3.

7 Data, 1 Stop, Parity Even

(7データビット、1ストップビット、パリティ Even)



232WRD6.

7 Data, 1 Stop, Parity Odd

(7データビット、1ストップビット、パリティ Odd)



232WRD4.

7 Data, 2 Stop, Parity Even

(7データビット、2ストップビット、パリティ Even)



232WRD1.

7 Data, 2 Stop, Parity None

(7データビット、2ストップビット、パリティ なし)



232WRD7.

7 Data, 2 Stop, Parity Odd

(7データビット、2ストップビット、パリティ Odd)



232WRD5.

8 Data, 1 Stop, Parity Even

(8データビット、1ストップビット、パリティ Even)



232WRD2.

8 Data, 1 Stop, Parity None

(8データビット、1ストップビット、パリティ なし)



232WRD8.

8 Data, 1 Stop, Parity Odd

(8データビット、1ストップビット、パリティ Odd)

RS232 ハンドシェイキング

RS232 ハンドシェイクとは、ホストシステムからのソフトウェアコマンドを使用して、スキャナからのデータ送信を制御できるようにするものです。RTS/CTS を**無効**にすると、データのフロー制御は使用されません。

RTS/CTS

スキャナがデータを送信する際に RTS をアサートし、ホストシステムから CTS がアサートされるのを無期限に待ちます。

初期設定値 = RTS/CTS OFF (RTS/CTS 無効)



232CTS1.

RTS/CTS On
(RTS/CTS 有効)



232CTS0.

RTS/CTS Off
(RTS/CTS 無効)

XON/XOFF

スキャナへデータ送信(XON/XOFF On)や送信中止(XON/XOFF Off)を行わせる際には標準 ASCII コントロールキャラクターが用いられます。ホストシステムが XOFF キャラクタ(DC3, hex 13)をスキャナに送信することで送信を一時中断します。送信を再開するには、ホストシステムから XON キャラクタ(DC1, hex 11)を送信します。データ送信は XOFF 送信によって停止されたところから続行されます。

初期設定値 = XON/XOFF Off (XON/XOFF 無効)



232XON1.

XON/XOFF On
(XON/XOFF 有効)



232XON0.

*** XON/XOFF Off**
(XON/XOFF 無効)

ACK/NAK

データ送信の後、スキャナはホストからの ACK キャラクタ(hex 06) もしくは NAK キャラクタ(hex 15)レスポンスを待ちます。ACKを受け取ると、交信は完成し、スキャナはさらなるバーコードを探します。NAKを受け取ると、最後のバーコードセットが送信され、スキャナは ACK や NAK を再度待ち受けます。

ACK/NAK プロトコルを有効にする場合は、以下の **ACK/NAK On (ACK/NAK 有効)** バーコードを読み取ってください。ACK/NAK プロトコルをオフにする場合は **ACK/NAK Off (ACK/NAK 無効)** を読み取ります。

初期設定値 = ACK/NAK Off (ACK/NAK 無効)



232ACK1.

ACK/NAK On
(ACK/NAK 有効)



232ACK0.

*** ACK/NAK Off**
(ACK/NAK 無効)

入力/出力設定

読み取り成功時の表示

ブザー - 読み取り成功時

読み取り成功時に鳴るブザーを有効または無効に設定できます。このブザーを無効にすると、読み取り成功時のブザーだけを無効にし、エラー発生時およびメニュー設定時のブザーはそのまま鳴動します。

初期設定値 = Beeper - Good Read On (読み取り成功時のブザー 有効)



BEPBEP1.

* On
(有効)



BEPBEP0.

Off
(無効)

ブザー音量 - 読み取り成功時

読み取り成功時にスキヤナが鳴らすブザーの音量を変更します。

初期設定値 = High (大)



BEPLVL1.

Low
(小)



BEPLVL2.

Medium
(中)



BEPLVL3.

* High
(大)



BEPLVL0.

Off
(無効)

ブザーの音程 - 読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが鳴らすブザー音の周波数（音程）を変更します。

初期設定値 = Medium（中）



BEPFQ11600.

Low (1600Hz)
(低)



BEPFQ12750.

*** Medium (2750Hz)**
(中)



BEPFQ14200.

High (4200Hz)
(高)

ブザーの長さ - 読み取り成功時

読み取り成功時にスキャナが鳴らすブザー音の長さを変更します。

初期設定値 = Normal Beep（標準）



BEPBIP0.

*** Normal Beep**
(標準)



BEPBIP1.

Short Beep
(短音)

ブザー音 - エラー時

読み取り失敗やエラー発生時にスキャナが鳴らすブザー音の周波数（音程）を変更します。

初期設定時 = Razz（低）



BEPFQ2100.
Razz (100Hz)
(低)



BEPFQ22000.
Medium (2,000Hz)
(中)



BEPFQ24200.
High (4,200Hz)
(高)

LED - 読み取り成功時

読み取り成功時に点灯する LED を有効 または無効に設定できます。

初期設定値 = On（有効）



BEPLD1.
* On
(有効)



BEPLD0.
Off
(無効)

ブザー音の回数 - 読み取り成功時

読み取り成功時のブザー回数を 1～9 回に設定できます。ここで設定されるブザー回数が、読み取り成功時のブザーと LED 点灯にも同様に適用されます。例えば、ブザー 5 回に設定すると、読み取り成功時にブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。ブザーと LED の点滅は互いに同期しています。

ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字（1～9）バーコードと **Save（保存）** バーコードを読み取ってください。

初期設定値 = 1



BEPRPT.
Number of Pulses
(パルスの回数)

読み取り成功時のディレー（間隔）

次のバーコードを読み取るまでの最短時間を設定します。
初期設定値 = No Delay（ディレーなし）



DLYGRD0.
*** No Delay**
(ディレーなし)



DLYGRD500.
Short Delay (500ms)
(短いディレー— 500ms)



DLYGRD1000.
Medium Delay (1,000ms)
(中間のディレー 1,000ms)



DLYGRD1500.
Long Delay (1,500ms)
(長いディレー 1,500ms)

ユーザー指定のディレー（間隔）

次のバーコードを読み取るまでの時間を独自の長さに設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取って時間（0～ 30,000 ミリ秒）を設定し、最後に **Save（保存）** を読み取ります。



DLYGRD.
User-Specific Good Read Delay
(ユーザー定義の読み取り成功時のディレー)

トリガーモード

マニュアル/シリアルトリガー

トリガーを引くか、シリアルトリガーコマンドを用いることで、スキャナを動作させることができます([ページ 9-4](#) 『トリガーコマンド』 を参照)。

シリアルトリガーモードでは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるまで読み取り動作を継続しますが、指定時間が過ぎた後に自動的にオフになるようにスキャナを設定することもできます (後述の『読み取りタイムアウト』 を参照)。

初期設定値 = Manual/Serial Trigger On (マニュアル/シリアルトリガー 有効)



読み取りタイムアウト

ここでは、スキャナをシリアルコマンドで動作させる際のトリガーのタイムアウト (ミリ秒単位) を設定します。スキャナが一旦タイムアウトになった後は、トリガーを引くかシリアルトリガーコマンドを用いて動作させることができます。

Read Time-Out (読み取りタイムアウト) のバーコードを読み取り、裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから数字を読み取ってタイムアウト時間 (0 ~ 300,000 ミリ秒) を設定し、次に **Save (保存)** を読み取ります。

初期設定値 = 30,000 ミリ秒



自動トリガー

スキャナは内蔵の LED でバーコードを検知し、連続して読み取ります。



プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでは、周囲の照明を使ってバーコードを検知します。プレゼンテーションモードを有効に設定すると、バーコードがスキャナに提示されるまで LED が消灯されており、バーコードが提示されると、自動的に LED を点灯して読み取ります。室内の照明によっては正常に機能しないことがありますので、注意してください。



TRGMOD3.

Presentation Mode
(プレゼンテーションモード)

連続照明モード

互いに近接している複数のバーコードを読み取る場合、1つのバーコードだけにスキャナの照準を的確に当てることができるよう、エイミングビームを連続して出す必要があります。下記の **Continuous Illumination Mode On** (連続照明モード 有効) を読み取ってください。バーコードにエイミングビームを当て、トリガーを引いて読み取ってください。Continuous Illumination Mode Off (連続照明モード 無効) にすると、この機能は解除されません。

初期設定値 = Continuous Illumination Mode Off (連続照明モード 無効)



ILLAON1.

Continuous Illumination Mode On
(連続照明モード 有効)



ILLANO.

* **Continuous Illumination Mode Off**
(連続照明モード 無効)

ハンズフリータイムアウト

自動トリガーおよびプレゼンテーションモードは「ハンズフリー」モードと呼ばれています。ハンズフリーモードを使用中にトリガーを引くと、マニュアルトリガーモードに変わります。

ハンズフリータイムアウトを設定することで、スキャナがマニュアルトリガーモードのままの時間を設定できます。タイムアウト値に達すると（さらにトリガーが引かれない限り）元のハンズフリーモードに戻ります。

Hands-Free Time-Out (ハンズフリータイムアウト) のバーコードを読み取り、裏表紙の内側からタイムアウト時間 (0 ~ 300,000 ミリ秒) を読み取り、次に **Save (保存)** を読み取ります。

初期設定値 = 5,000 ms



TRGPTO.

Hands-Free Time-Out
(ハンズフリータイムアウト 有効)

同一シンボル再読み取り時のディレー（間隔）

同じバーコードを2回目に読み取るまでの間隔を秒単位で設定します。再読み取りの間隔を設定することで、同じバーコードを誤って再度読み取りするのを防ぎます。間隔を長くすると、再読み取り時のエラーを最小限にするのに効果的です。

バーコードを繰り返し読み取る場合は、間隔を短くします。再読み取り時の間隔が動作するのは、プレゼンテーションモード ([ページ 3-6](#)) のときだけです。

初期設定値 = Medium 750ms (中位のディレー 750ms)



DLYRRD500.

Short (500ms)
(短いディレー 500ms)



DLYRRD1000.

Long (1,000ms)
(長いディレー 1,000ms)



DLYRRD750.

*** Medium (750ms)**
(中位のディレー 750ms)



DLYRRD2000.

Extra Long (2,000ms)
(最長のディレー 2,000ms)

ユーザー指定による再読み取り時のディレー（間隔）

再読み取り時の間隔を独自の長さに設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、裏表紙の内側から数字を読み取って時間（0 - 30,000 ミリ秒）を設定し、最後に保存を読み取ります。



DLYRRD.

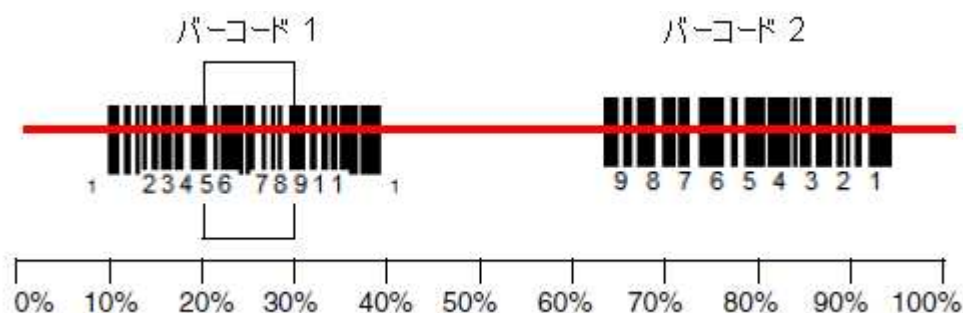
User-Specified Reread Delay
(ユーザーが同一シンボル再読み取り時のディレーを指定)

センタリング

希望のバーコードだけを確実に読み取るために、センタリング機能を利用してスキヤナの視界を狭めることができます。例えば、複数のバーコードが接近している場合は、センタリングで希望のバーコードだけを確実に読み取ります。

バーコードがあらかじめ定義されたウィンドウ内になければ、スキヤナはデコードも出力もしません。**Centering On** (センタリング有効) を読み取ると、**Left of Centering Window** (センタリングウィンドウの左) や **Right of Centering Window** (センタリングウィンドウの右) のバーコードで指定したセンタリングウィンドウを横切るコードだけを読み取ります。

次の例では、赤い線の部分がスキヤナの全視界であり、白い領域がセンタリングウィンドウです。下図で示すとおり、センタリングウィンドウは20% 左側、30% 右側に設定されています。バーコード1はセンタリングウィンドウを横切ることで読み取られませんが、バーコード2はセンタリングウィンドウを横切ることも無く、読み取られることはありません。



Centering On (センタリング有効) を読み取り、次のバーコードのいずれかを読み取ることでセンタリングウィンドウの左右いずれかが変更できます。次に本書の裏表紙の内側にある数字を用いて、センタリングウィンドウを移動するパーセンテージを読み取り、その後 **Save** (保存) を読み取ります。

初期設定値 = 40% 左側、60% 右側



アウトプットシーケンス – 概要

アウトプットシーケンスを要求する

アウトプットシーケンスを無効にすると、スキャナがデコードしたままの場オーコードデータがホストシステムに出力されます。有効の場合、すべての出力データは設定したシーケンスどおりでなければなりません。合致していなければ、スキャナは出力データをホストシステムに送信しません。

アウトプットシーケンスエディタ

この設定により、（複数のシンボルを読み取る時）バーコードが読み取られる順序に関係無く、アプリケーションに必要な任意の順序でデータを出力するようにスキャナを設定できます。**Default Sequence**（シーケンスの初期化）のシンボルを読み取ると、下記の汎用値にスキャナを設定します。これが初期設定になっています。

Default Sequence（シーケンスの初期化）のシンボルを読み取る前に、必ずフォーマットをすべて削除するか破棄してください。

注意：シーケンスで各バーコードを読み取る間は、トリガーを引いたままにしてください。

アウトプットシーケンスの追加

1. **Enter Sequence**（シーケンスの入力）のバーコードを読み取ります。（[ページ 3-10](#)の『アウトプットシーケンスエディタ』を参照。）

2. **コード I.D.**

[ページ A-1](#)のシンボルチャートでアウトプットシーケンスフォーマットを適用するシンボルを確認します。シンボルの HEX 値を確認し、プログラミングチャート（裏表紙の内側）から 2 桁の HEX 値を読み取ります。

3. **コードの長さ**

指定したシンボルで、出力可能なデータの長さ（最大 9,999 キャラクタ）を指定します。プログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ってください。

注意：50 キャラクタは 0050 と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さを表します。

データ桁数を計算するときには、設定したプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。（9999 を使用しない場合。）

4. **キャラクター一致シーケンス**

[ページ A-2](#)の ASCII 変換チャートを参照して、一致させたいキャラクタを表す Hex 値を確認してください。プログラミングチャートを使用して、その ASCII キャラクタを表す英数字の組み合わせを読み取ってください。（99 は汎用の数字で、すべてのキャラクタを意味します。）

5. **アウトプットシーケンスエディタの終了**

新たにシンボルを追加してアウトプットシーケンスを始めるときは **FF** を読み取ります。もしくは **Save(保存)** を読み取って入力を保存します。

その他のプログラミングシーケンス

Discard (破棄)

アウトプットシーケンスの変更を保存せずに終了します。

アウトプットシーケンスエディタ



SEQBLK

Enter Sequence
(シーケンスの入力)



SEQDFT

Default Sequence
(シーケンスの初期化)

アウトプットシーケンスの要求

アウトプットシーケンスが **Required (要求する)** のとき、出力データはすべて設定したシーケンスどおりでなければなりません。合致していなければ、スキャナは出力データをホストシステムに送信しません。**On/Not Required (有効/要求しない)** のときは、編集されたシーケンスに合うように出力データを取得しようとします。取得できなければ、すべての出力データをそのままホストシステムに送信します。無効の場合は、バーコードデータはスキャナがデコードしたままホストに出力されます。

注意：この設定は、マルチシンボル設定が有効になっていると、使用できません。



SEQ_EN2

Required
(要求する)



SEQ_EN1

On/Not Required
(有効/要求しない)



SEQ_EN0

* Off
(無効)

アウトプットシーケンスの例

この例では、Code 39、Code 128、および Code 39 のバーコードを読み取ります。下記のように Code 39 をはじめに、次に Code 128 を、Code 93 を三番目に出力するよう読み取りたいとします。

注意：この例では、Code 93 を必ず有効にしなければなりません。



A : Code 39



B : Code 128



C : Code 93

次のコマンド行でシーケンスエディタを設定します。

```
SEQBLK62999941FF6A999942FF69999943FF
```

コマンド行の内容は次のとおりです。

SEQBLK	シーケンスエディタ開始
62	Code 39 のコード ID
9999	Code 39 に適用するコードの長さ ; 9999 (すべての長さ)
41	Code 39 に適用するスタートキャラクタ ; 41h="A"
FF	最初のコードを終了
6A	Code 128 のコード ID
9999	Code 128 に適用するコードの長さ ; 9999 (すべての長さ)
42	Code 128 に適用するスタートキャラクタ ; 42h="B"
FF	2 番目のコードを終了
69	Code 93 のコード ID
9999	Code 93 に適用するコードの長さ ; 9999 (すべての長さ)
43	Code 93 に適用するスタートキャラクタ ; 43h="C"

先の例を異なる桁数で設定するには、設定したプリフィクス、サフィックス、またはフォーマットしたキャラクタをデータ桁数の一部として数える必要があります。上記の例を使用しつつ <CR> サフィックスと特定のコード長を想定する場合は、次のコマンド行を使用します。

SEQBLK62001241FF6A001342FF69001243FF

コマンド行の内容は次のとおりです

SEQBLK	シーケンスエディタの開始
62	Code 39 のコード ID
0012	A - Code 39 の長さ (11 桁) + CR サフィックス (1 桁) = 12 桁
41	Code 39 に適用するスタートキャラクタ、41h="A"
FF	最初のコードを終了
6A	Code 128 のコード ID
0013	B - Code 128 の長さ (12 桁) + CR サフィックス (1 桁) = 13 桁
42	Code 128 に適用するスタートキャラクタ、42h="B"
FF	2 番目のコードを終了
69	Code 93 のコード ID
0012	C - Code 93 の長さ (11 桁) + CR サフィックス (1 桁) = 12 桁
43	Code 93 に適用するスタートキャラクタ、43h="C"
FF	3 番目のコードを終了

マルチプルシンボル

この設定を有効にすると、スキャナのトリガーを 1 回引くだけで複数のシンボルを読み取ることができます。トリガーを引いたまま複数のシンボルに照準を当てると、各シンボルを 1 回ずつ読み取り、その都度ブザーが鳴ります。(有効の場合。)

スキャナは、トリガーを引いている間に新たなシンボルを探してデコードしようとします。この設定を無効にすると、エイミングビームに最も近いシンボルだけを読み取ります。

初期設定値 = Off (無効)



No Read

No Read を有効にすると、スキャナがシンボルを読まずにトリガーを離した場合、スキャナは「NR」をホストシステムに送信します。No Read を無効にすると「NR」は表示されません。

初期設定値 = Off (無効)



On
(No Read 有効)



* Off
(No Read 無効)

例えば「Error」や「Bad Code」など「NR」以外を表示したい場合は、出力メッセージを編集できます ([ページ 5-1](#)の『データフォーマット』参照)。No Read シンボルの HEX 値は 9C です。

ビデオリバース – 反転バーコード

この設定を使用すると、色が反転したバーコードを読み取ることができます。反転したバーコードを読み込む際には、**Video Reverse Only (色反転シンボルの有効)** を読み取ってください。

注意：色反転シンボルの読み取りを有効にしてしまうと、他のメニューバーコードを読み取ることができなくなってしまう。他のメニューバーコードを読み取る必要がある場合は、それらをすべて設定した後に色反転バーコードの読み取りを有効にしてください。



On
(色反転シンボル 有効)



* Off
(色反転シンボル 無効)

データの編集

プリフィクス/サフィックスの概要

プリフィクス/サフィックスキャラクタとは、読み取ったバーコードデータの前後に追加して送信できるデータキャラクタです。バーコードを読み取ると、指定されたキャラクタがバーコードデータの前または後ろに追加され、一緒にホストシステムに送信されます。バーコードデータと、ユーザーによって定義された追加キャラクタを合わせて、「メッセージストリング（文字列）」と呼びます。この章では、ユーザーによって定義されたデータ（キャラクタ）をメッセージストリングに組み込む方法を紹介します。

すべてのシンボルに追加するか、特定のシンボルにだけ追加して送信するかを指定できます。次の図は、メッセージストリングの中身を示します。



留意点

- 常にメッセージストリングを作る必要はありません。この章の設定を使用するのは、初期設定を変更したい場合に限りです。
初期設定プリフィクス= なし、初期設定サフィックス= なし
- プリフィクスやサフィックスは、1つのシンボルまたはすべてのシンボルに追加・削除できます。
- [ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート（コードページ 1252）でプリフィクスやサフィックスを、そしてコード ID や AIM ID を選び追加してください。
- 1回で、複数のシンボルに対して複数の設定を結合できます。
- 出力で表示したい順にプリフィクスとサフィックスを入力してください。
- （すべてのシンボルではなく）特定のシンボルを設定するとき、そのコード ID も追加されたプリフィクスまたはサフィックスとしてカウントされます。
- プリフィクス/サフィックスはヘッダー情報を含めて、最大 200 キャラクタです。

プリフィクスまたはサフィックスの追加方法

- Step 1** **Add Prefix (プリフィクスの追加)** または **Add Suffix (サフィックスの追加)** バーコードを読み取ります ([ページ 4-3](#))。
- Step 2** シンボルチャート ([ページ A-1](#) を参照) からプリフィクスまたはサフィックスを適用したいシンボルを示す 2 桁の HEX 値を確認します。
例えば、Code 128 の場合、コード ID は「j」、Hex ID は「6A」です。
- Step 3** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の数字を読み取ります。すべてのシンボルに付加する場合は 99 と読み取ります。
- Step 4** [ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) から、付加したいプリフィクスまたはサフィックスの HEX 値を確認します。
- Step 5** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから、確認した 2 桁の HEX 値を読み取ります。
- Step 6** プリフィクスまたはサフィックスのキャラクタごとに **Step 4** と **Step 5** を繰り返します。
- Step 7** コード ID を追加するときは、**5、C、8、0** を読み取ります。
AIM ID を追加するときは、**5、C、8、1** を読み取ります。
バックスラッシュ (\) を追加するときは、**5、C、5、C** を読み取ります。
- 注意:** **Step 7** でバックスラッシュ (\) を追加するときは、**5C** を **2 回読み取ってください**。1 回目で先行バックスラッシュを作成し、次にバックスラッシュ自体を作成します。
- Step 8** **Save (保存)** を読み取って保存するか、**Discard (破棄)** を読み取って保存せずに終了します。

別のシンボルにプリフィクスまたはサフィックスを追加するときは、Step 1 ~ 6 を繰り返します。

例: 特定のシンボルにサフィックスを追加

ここでは、CR (キャリッジリターン) サフィックスを UPC だけに付加します。

- Step 1** **Add Suffix (サフィックスの追加)** を読み取ります。
- Step 2** シンボルチャート ([ページ A-1](#) を参照) から UPC の 2 桁の HEX 値を確認します。
- Step 3** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **6、3** を読み取ります。
- Step 4** [ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) から、CR (キャリッジリターン) の HEX 値を確認します。
- Step 5** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから、**0、D** を読み取ります。
- Step 6** **Save (保存)** を読み取ります。もしくは **Discard (破棄)** を読み取って保存せずに終了します。

1 つまたはすべてのプリフィクス・サフィックスの削除

シンボルのプリフィクスまたはサフィックスを 1 つまたはすべて削除できます。1 つのシンボルにプリフィクスやサフィックスを追加したことがある場合、**Clear One Prefix/Suffix (プリフィクス/サフィックスを 1 つ削除)** で特定のキャラクタをシンボルから消去します。また、**Clear All Prefixes/Suffix (プリフィクス/サフィックスをすべて削除)** を選択すると、すべてのプリフィクスまたはサフィックスが削除されます。

- Step 1** **Clear One Prefix (プリフィクスを 1 つ削除)** または **Clear One Suffix (サフィックスを 1 つ削除)** のバーコードを読み取ります。
- Step 2** シンボルチャート ([ページ A-1](#) のシンボルチャート) から、プリフィクスまたはサフィックスを削除したいシンボルの 2 桁の HEX 値を確認します。
- Step 3** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の HEX 値を読み取ります。すべてのシンボルの場合は **9、9** を読み取ります。

この変更は自動的に保存されます。

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加する

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに一度に追加したい場合は、次のバーコードを読み取ります。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて削除し、次にすべてのシンボルに対してキャリッジリターンサフィックスを設定します。



Add CR Suffix All Symbologies
(すべてのシンボルに CR サフィックスを追加)

プリフィックスの選択



Add Prefix
(プリフィックスを追加)



Clear All Prefixes
(プリフィックスをすべて削除)



Clear One Prefix
(プリフィックス 1つを削除)

サフィックスの選択



Add Suffix
(サフィックスを追加)



Clear All Suffixes
(サフィックスをすべて削除)



Clear One Suffix
(サフィックスを 1つ削除)

ファンクションコードの転送

この設定が有効に設定されていて、かつ読み取ったデータにファンクションコードが含まれている場合、スキャナはそのファンクションコードをホストシステムに送信します。これらのファンクションコードは、ページ 7-3 の『対応しているインターフェースキー』に記載されています。キーボードウェッジモードの場合、読み取りコードはキーコードに変換されてから送信されます。

初期設定値 = Enable (有効)



RMVFNC0

* Enable

(ファンクションコードの転送 有効)



RMVFNC1

Disable

(ファンクションコードの転送 無効)

キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間のディレー (間隔)

データ送信が速すぎると、ホストシステムによっては情報 (キャラクタ) を取りこぼすことがあります。キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間の送信速度を遅くする (または間隔を長くする) ことで、データをより確実に送信します。各送信速度は 5 ミリ秒で構成されています。最多 99 段階、0~495 ミリ秒 (5 ミリ秒単位) まで設定可能です。

キャラクタ間のディレー (間隔)

スキャンしたデータの各キャラクタを送信する速度を最長 496 ミリ秒まで設定できます。下記の **Intercharacter Delay** (キャラクタ間のディレー) バーコードを読み取って、設定したい間隔の数字を読み取ってください。最後に本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **Save (保存)** を読み取って、終了してください。

この間隔を削除する場合は、**Intercharacter Delay** (キャラクタ間のディレー) を読み取って、間隔を「0」に設定してください。本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **Save (保存)** を読み取って、終了してください。

注意: USB シリアルエミュレーションではキャラクタ間の間隔を設定できません。



DLYCHR

Intercharacter Delay

(キャラクタ間のディレー)

ユーザー指定によるキャラクタ間のディレー（間隔）設定

スキャンしたデータで特定のキャラクタの送信後にキャラクタ間の間隔を設定します。下記の **Delay Length（ディレーの長さ）** バーコードを読み取って、設定したい間隔の数字を読み取ってください。

最後に本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **Save（保存）** を読み取って、終了してください。次に、**Character to Trigger Delay（ディレーを動作させるキャラクタ）** バーコードを読み取って、[ページ A-2](#) の ACSII 変換チャート（コードページ 1252）から該当するキャラクタの 2 桁の Hex 値を読み取り、間隔を始動させるキャラクタを指定します。



DLYCRX.
Delay Length
(ディレーの長さ)

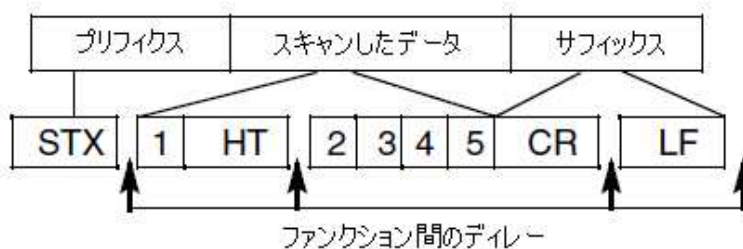


DLY_XX.
Character to Trigger Delay
(ディレーを動作させるキャラクタ)

この間隔を削除するには、**Delay Length（ディレーの長さ）** バーコードを読み取って、ミリ秒を「0」に設定してください。最後に本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **Save（保存）** を読み取って、終了してください。

ファンクション間のディレー（間隔）

メッセージストリングの各セグメント送信において、最長 5,000 ミリ秒（5 ミリ秒 単位）のファンクション間の間隔を設定できます。下の **Interfunction Delay（ファンクション間のディレー）** バーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位で間隔を設定し、最後に **Save（保存）** のバーコードを読み取ってください。

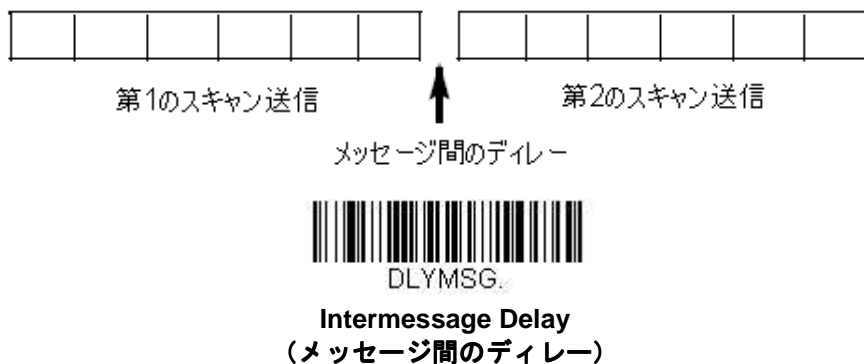


DLYFNC.
Interfunction Delay
(ファンクション間のディレー)

この間隔を削除するときは、**Interfunction Delay（ファンクション間のディレー）** のバーコードを読み取り、次に遅延時間を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。

メッセージ間のディレイ（間隔）

読み取り送信において、最長 5,000 ミリ秒（5 ミリ秒 単位）のメッセージ間の間隔を設定できます。下記の **Intermessage Delay（メッセージ間のディレイ）** のバーコードを読み取り、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで 5 ミリ秒単位で間隔を設定し、最後に **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。



この間隔を削除するときは、**Intermessage Delay（メッセージ間のディレイ）** のバーコードを読み取り、次に感覚を 0 に設定します。その後、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。

データフォーマット

データフォーマットエディタについて

このデータフォーマットエディタを使うと、スキャナ出力データを編集することができます。例えば、バーコードデータを読み取りながら特定箇所にキャラクタを挿入することが可能です。出力データを編集したい場合にこの章の設定を使用してください。

データフォーマットの初期設定値 = None (なし)

通常、バーコードを読み取るとデータが自動的に出力されますが、フォーマットをする場合は、「送信」コマンド（ページ 5-4 の『送信コマンド』を参照）でデータを出力する必要があります。スキャナには複数のフォーマットをプログラム可能です。フォーマットは入力された順に堆積しますが、フォーマットが適用される順序は下記の通りです。

1. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
3. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
4. 特定のターミナル ID、汎用のコード ID、汎用の長さ
5. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. 汎用のターミナル ID、実際のコード ID、汎用の長さ
7. 汎用のターミナル ID、汎用のコード ID、実際の長さ
8. 汎用のコード ID、汎用の長さ

データフォーマットの構成はヘッダー情報を含め、最大 256 バイトです。全部で 4 つのフォーマットを作成できますが、各フォーマットは 50 バイト以上を保存できません。

データフォーマットの設定変更を行った後にフォーマットすべてを削除して工場初期設定に戻したい場合は、下の **Default Data Format (データフォーマットを初期化する)** バーコードを読み取ってください。



DFMDF3.

*** Default Data Format**
(データフォーマット初期設定)

データフォーマットの追加

- Step 1** **Enter Data Format** (データフォーマットの開始) のシンボルを読み取ります。
([ページ 5-8](#) を参照)
- Step 2** **Primary** (基準) もしくは **Alternate Format** (代用) フォーマットを選択します。基準のデータフォーマットにするか、または 3 つある代用フォーマットの 1 つにするかを決定します。全部で 4 つの異なるデータフォーマットの方法を保存することができます。基準フォーマットを設定するときは、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートで **0** を読み取ります。代用フォーマットをプログラム設定する場合は、設定する代用フォーマットによって **1**、**2**、または **3** を読み取ります。
- Step 3** **ターミナルの種類**
ターミナル ID 表 ([ページ 5-3](#)) を参照し、お使いのホストシステムのターミナル ID を確認します。裏表紙の内側にある 3 つの数字バーコードを読み取り、そのターミナル ID でスキャナを設定します。(数字を 3 つ入力してください。)
例えば、AT ウェッジの場合は **0**、**0**、**3** を読み取ります。
注意: ターミナル全種類に対応のワイルドカードは 099 です。
- Step 4** **コード ID**
[ページ A-1](#) からシンボルチャートでデータフォーマットを適用するシンボルを確認します。そのシンボルの HEX 値を確認し、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 2 桁の HEX 値を読み取ります。
- Step 5** **コードの長さ**
このシンボルで設定可能なデータの長さ (最大 9,999 キャラクタ) を指定します。本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから 4 桁のデータ桁数を読み取ります。
注意: 50 キャラクタは 0050 と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さに適用されません。
- Step 6** **編集コマンド**
[ページ 5-4](#) を参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルを読み取ります。各シンボルデータフォーマットには、94 の英数キャラクタを入力できます。
- Step 7** データフォーマットの保存には、**Save** (保存) を読み取ってください。



DFMBK3.

Enter Data Format
(データフォーマットを開始)



MNUSAV.

Save
(保存)



MNUABT.

Discard
(破棄)

その他のプログラミング

- **データフォーマットを1件削除する**

シンボル1つに対してデータフォーマットを1件削除します。基準フォーマットを削除する場合は、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから0を読み取ります。代用フォーマットを削除する場合は、削除する代用フォーマットによって1、2、または3を読み取ります。その後、削除したい特定のデータフォーマットのターミナルの種類、コードID（[ページA-1](#)のシンボルチャートを参照）、およびバーコードデータ桁数を読み取ります。他のフォーマットはすべて影響を受けません。

- **Save:** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **Save（保存）** を読み取ってください。データフォーマット変更からの保存終了を行います。

- **Discard:** 本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから **Discard（廃棄）** を読み取ってください。データフォーマットへの変更の保存を行わずに終了します。



DFMCL3

Clear One Data Format
(データフォーマットを1つ削除する)



DFMCA3

Clear All Data Format
(データフォーマットをすべて削除する)



MNUSAV

Save
(保存)



MNUABT

Discard
(廃棄)

ターミナルID表

ターミナル	機種	ID
IBM	AT、PS/2 30-286、50、55SX、60、70、70-061、70-121、80	003
	USB SurePOS ハンドヘルドスキャナ	128
	USB SurePOS テーブルトップスキャナ	129
RS232C	TTL	000
RS485	IBM Tailgate 4682	051
USB	シリアル/COMポート	130
	PC キーボード	124*
	Mac キーボード	125
	HID POS	131

* 工場出荷時設定

データフォーマットエディタのコマンド

送信コマンド

すべてのキャラクタを送信

- F1 出力されたメッセージ内にあるすべてのキャラクタを出力し、その後ユーザー指定のキャラクタを挿入します。**Syntax = F1xx** (xx は、挿入キャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください)。

いくつかのキャラクタを送信

- F2 出力されたメッセージの内、いくつかのキャラクタを出力し、その後ユーザー指定のキャラクタを挿入します。現在のカーソル位置から始まり、「nn」個のキャラクタまで、もしくは出力メッセージの最後のキャラクタまで続きます。**Syntax = F2nnxx** (nn はキャラクタ数を示す数字 (00~99) で、xx は挿入するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください)。

特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信

- F3 現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索キャラクタ「ss」の手前までのキャラクタすべてを出力メッセージから抜き出して出力し、続いてユーザー指定のキャラクタを挿入します。カーソルは「ss」キャラクタへと移動します。**Syntax = F3ssxx** (nn は検索するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示し、xx は、挿入キャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください)。

DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください。

最後のキャラクタ以外のキャラクタすべてを送信

- E9 現在のカーソル位置から始まり、最後の「nn」キャラクタを除くすべてのキャラクタを出力します。カーソルは最後のキャラクタから 1 つ過ぎたところへ移動します。**Syntax = E9nn** (nn は、送信されない最後のキャラクタ数の数値 (00~99) を示しています)。

キャラクタを複数回挿入

- F4 現在のカーソル位置はそのまま、**「xx」**キャラクタを**「nn」**回出力メッセージに加えて送信します。**Syntax = F4xxnn** (xx は、挿入するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示し、nn は、送信する回数 (00~99) を示します。DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#) の ASCII 変換チャート (コードページ 1252) を参照してください)。

移動コマンド

カーソルを前方に移動

- F5 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ先へと移動させます。**Syntax = F5nn**（nn は、カーソルを前に移動させるキャラクタ数（00 ~ 99）を示しています。）

カーソルを後方に移動

- F6 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ後ろへ、移動させます。**Syntax = F6nn**（nn は、カーソルを後ろへ移動させるキャラクタ数（00 ~ 99）を示しています。）

カーソルを先頭に移動

- F7 カーソルを出力メッセージの先頭に移動させます。**Syntax = F7**

カーソルを最後に移動

- F8 カーソルを出力メッセージの最後に移動します。**Syntax = EA**

検索コマンド

前方のキャラクタを検索

- F8 出力メッセージ内で、現在のカーソル位置より前方にある「xx」キャラクタを検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。**Syntax = F8xx**（xx は、検索するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。）DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#)の ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

後方のキャラクタを検索

- F9 出力メッセージ内で、現在のカーソル位置より後方にある「xx」キャラクタを検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。**Syntax = F9xx**（xx は、検索するキャラクタの ASCII コードにコードに対する HEX 値を示しています。）DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#)の ASCII 変換チャート（コードページ 1252）を参照してください。

一致しないキャラクタを前方検索

- E6 出力メッセージ内で、現在のカーソル位置より前方にある「xx」以外のキャラクタを検索し、カーソルは「xx」でないキャラクタに移動します。**Syntax = E6xx**（xx は、検索キャラクタ ASCII コードにコードに対する HEX 値を示しています。）DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#)の ASCII 換算チャート（コードページ 1252）を参照してください。

一致しないキャラクタを後方検索

- E7 出力メッセージ内で、現在のカーソル位置より後方にある「xx」以外のキャラクタを検索し、カーソルは「xx」ではないキャラクタに移動します。**Syntax = E7xx**（xx は検索キャラクタの ASCII コードにコードに対する HEX 値を示しています。）DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#)の ASCII 換算チャート（コードページ 1252）を参照してください。

その他のコマンド

キャラクタの無効

- FB 他のコマンドでカーソルを進めると同時に、現在のカーソル位置から最大 15 のキャラクタをすべて無効にします。FC コマンドを実行すると、この機能は停止します。カーソルは、FB コマンドでは移動しません。**Syntax = FBnnxyy...zz** (nn は無効になるキャラクタの数、xyy...zz は無効になるキャラクタのリストです。)

キャラクタの無効を停止

- FC 無効フィルタを停止し、対象のキャラクタをすべて削除します。
Syntax = FC

キャラクタの置換

- E4 出力メッセージ内にあるキャラクタを最大 15 のキャラクタまでカーソル移動の無しに置き換えます。E5 コマンドを実行するまで置換を行います。**Syntax = E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2** (nn は変更前後のキャラクタ合計数です。xx1 は変更前のキャラクタを、xx2 は変更後のキャラクタを定義します。zz1 と zz2 まで同様です。)

キャラクタの置換を停止

- E5 キャラクタの置換を停止します。**Syntax = E5**

キャラクタの比較

- FE 現在のカーソル位置のキャラクタをキャラクタ「xx」と比較します。キャラクタが同じ場合は、カーソルを 1 つ進めます。**Syntax = FExx** (xx は、比較するキャラクタの ASCII コードに対する HEX 値を示しています。)
DEC 値、HEX 値、キャラクタコードについては、[ページ A-2](#) の ASCII 換算チャート (コードページ 1252) を参照してください。

数字の確認

- EC 現在のカーソル位置に ASCII 数字があることを確認します。キャラクタが数字でない場合は、フォーマットを中止します。**Syntax = EC**

数字以外のキャラクタを確認

- ED 現在のカーソル位置に ASCII 数字以外のキャラクタがあることを確認します。キャラクタが数字でない場合は、フォーマットを中止します。**Syntax = ED**

データフォーマットエディタ



DFMBK3.

Enter Data Format
(データフォーマットの開始)



DFMCL3.

Clear One Data Format
(データフォーマット1つを削除)



MNUSAV.

Save
(保存)



DFMD3.

*** Default Data Format**
(データフォーマットを初期化)



DFMCA3.

Clear All Data Format
(データフォーマットをすべて削除)



MNUABT.

Discard
(破棄)

データフォーマッタ

データフォーマッタを無効にすると、プリフィクスとサフィックスを含め、バーコードデータは読み取ったままホストシステムに出力されます。

初期設定値 = Data Formatter ON, but not required (データフォーマッタ有効、要求しない)



DFM_EN1.

*** Data Formatter On, but not required**
(データフォーマッタ有効、要求しない)



DFM_EN0.

Data Formatter Off
(データフォーマッタ無効)

データフォーマッタが必須の場合、出力されるデータすべてが編集されたフォーマットと合致していなければなりません。合致していない場合、スキャナはデータをホストシステムに送信しません。



DFM_EN2.

Data Formatter On, Format Required.
(データフォーマッタ有効、要求する)

シンボル

はじめに

この章では、以下のメニュー項目について説明します。設定と初期設定については、第9章を参照してください。

- [すべてのシンボル](#)
- [China Post Code \(中国郵便コード\)](#)
- [Codabar](#)
- [Codablock F](#)
- [Code 11](#)
- [Code 39](#)
- [Code 32 Pharmaceutical \(PARAF\)](#)
- [Code 49](#)
- [Code 93](#)
- [Code 128](#)
- [UPC-A/EAN-13 \(拡張クーポンコードつき\)](#)
- [GS1 データバー 標準型 \(オムニディレクショナル\)](#)
- [GS1 データバー 限定型 \(リミテッド\)](#)
- [GS1 データバー 拡張型 \(エクспанデッド\)](#)
- [インタリーブド2オブ5 \(ITF\)](#)
- [Label Code](#)
- [Matrix 2 of 5](#)
- [MSI](#)
- [Plessey Code](#)
- [Straight 2 of 5 IATA \(2バースタート/ストップ\)](#)
- [Straight 2 of 5 Industrial \(3バースタート/ストップ\)](#)
- [Telepen](#)
- [Trioptic Code](#)
- [UPC A](#)
- [UPC E](#)

すべてのシンボル

お使いのスキヤナで読み取り可能なシンボルをすべてデコードしたい場合は、**All Symbologies On (すべてのシンボルを有効)** のバーコードを読み取ります。特定のシンボルだけを読み取りたい場合は、**All Symbologies Off (すべてのシンボルの無効)** を読み取り、その後その特定シンボルに対してのみ有効のバーコードを読み取ります。



All Symbologies On
(すべてのシンボルの読み取り 許可)



All Symbologies Off
(すべてのシンボルの読み取り 禁止)

読み取り桁数

バーコードシンボルによっては、読み取り桁数を設定できます。読み取ったバーコードのデータ桁数が指定した読み取り桁数と一致しなければ、エラーブザーが鳴ります。強制的にスキヤナに一定桁数のバーコードデータを読み取らせるため、最短と最長を同じ値に設定できます。これは、読み取りエラーを減らすのに役立ちます。

例： 桁数が 9 ～ 20 のバーコードだけをデコードする。
最短：09、最長：20

例： 桁数が 15 のバーコードだけをデコードする。
最短：15、最長：15

初期設定の最短および最長読み取り桁数以外の値にする場合は、そのシンボルの説明に含まれているバーコードを読み取り、次に本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートの読み取り桁数の数値と **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。最短と最長、および初期設定は、それぞれのシンボルの説明と共に記載されています。

Codabar

【Codabar すべての設定を初期化】



Codabar の有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

Codabar スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信か送信不可のいずれかを選択できます。

初期設定値 = Don't Transmit (送信しない)



Transmit
(送信する)



* Do not transmit
(送信しない)

Codabar チェックキャラクタ

Codabar チェックキャラクタは、いろいろな「モジュラス」を用いて作成します。モジュラス 16 チェックキャラクタを用いた Codabar のバーコードだけを読み取るよう、スキャナを設定できます。

初期設定値 = No Check Character (チェックキャラクタなし)

No Check Character (チェックキャラクタなし) は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

Validate and Transmit (認証および送信) に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷された Codabar のみ読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate, but Don't Transmit (認証、送信しない) に設定すると、チェックキャラクタと共に印刷された Codabar バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは、読み取ったデータと一緒に送信されません。



CBRCK20.

* No Check Character
(チェックキャラクタなし)



CBRCK21.

Validate Modulo 16, but Do Not Transmit
(モジュラス 16 有効、送信しない)



CBRCK22.

Validate Modulo 16 and Transmit
(モジュラス 16 有効、送信する)

Codabar の連結

Codabarには、連結サポート機能があります。連結機能を有効にすると、「D」のスタートキャラクタがあるバーコードと、「D」のストップキャラクタがあるバーコードに隣接する Codabar を検索します。この場合、2つのデータは1つに連結され、「D」キャラクタは省略されます。



連結されていない単独の「D」Codabar をデコードしないようにするには、**Required (要求する)** を選択します。この選択をしても、「D」のスタート/ストップキャラクタがない Codabar には影響ありません。



CBRCT1.

On
(有効)



CBRCT2.

Required
(要求する)



CBRCT0.

*** Off**
(無効)

Codabar の読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 2 ~ 60 最短の初期設定値 = 4 最長の初期設定値 = 60



CBRMIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



CBRMAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 39

【 Code 39 すべての設定を初期化 】



Code 39 の有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

Code 39 スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。
初期設定値 = Don't Transmit (送信しない)



Transmit
(送信する)



* Do Not Transmit
(送信しない)

Code 39 チェックキャラクタ

No Check Character (チェックキャラクタなし) は、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない) に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタと読み取ったデータと一緒に送信しません。

Validate and Transmit (有効、送信する) に設定すると、チェックキャラクタが印刷された Code 39 バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

初期設定値 = No Check Character (チェックキャラクタなし)



* No Check Character
(チェックキャラクタなし)



Validate, but Do Not Transmit
(有効、送信しない)



Validate and Transmit
(有効、送信する)

Code 39 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能読み取り桁数 = 0 ~ 48

最短の初期設定値 = 0

最長の初期設定値 = 48



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 39 の連結

この機能により、複数の Code 39 バーコードのデータを付加してからホストシステムに送信できます。この機能を有効にすると、スキャナはスペースで始まる Code 39 バーコード（スタートおよびストップシンボルを除く）を保存し、すぐにはデータを送信しません。バーコードを読み取った順にデータを保存し、それぞれから最初のスペースを削除します。スペース以外のキャラクタで始まる Code 39 バーコードを読み取ると、保存したデータを送信します。

初期設定値 = Off (無効)



C39APP1.

On
(有効)



C39APP0.

*** Off**
(無効)

Code 32 Pharmaceutical (PARAF)

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの薬局で使用されている Code 39 の一種です。PARAF とも呼ばれます。



C39B321.

On
(有効)



C39B320.

*** Off**
(無効)

Full ASCII

Full ASCII Code 39 デコーディングを有効にすると、バーコード内のある一定のキャラクタペアが単独のキャラクタとして解釈されます。例えば、「\$V」は ASCII キャラクタの「SYN」として、「/C」は「#」としてデコードされます。

初期設定値 = Off (無効)

NUL %U	DLE \$P	SP SPACE	0 0	@ %V	P P	' %W	p +P	
SOH \$A	DC1 \$Q	! /A	1 1	A A	Q Q	a +A	q +Q	
STX \$B	DC2 \$R	" /B	2 2	B B	R R	b +B	r +R	
ETX \$C	DC3 \$S	# /C	3 3	C C	S S	c +C	s +S	
EOT \$D	DC4 \$T	\$ /D	4 4	D D	T T	d +D	t +T	
ENQ \$E	NAK \$U	% /E	5 5	E E	U U	e +E	u +U	
ACK \$F	SYN \$V	& /F	6 6	F F	V V	f +F	v +V	
BEL \$G	ETB \$W	' /G	7 7	G G	W W	g +G	w +W	
BS \$H	CAN \$X	(/H	8 8	H H	X X	h +H	x +X	
HT \$I	EM \$Y) /I	9 9	I I	Y Y	i +I	y +Y	
LF \$J	SUB \$Z	* /J	:	/Z	J J	Z Z	j +J	z +Z
VT \$K	ESC %A	+ /K	;	%F	K K	[%K	k +K	{ %P
FF \$L	FS %B	, /L	<	%G	L L	\ %L	l +L	%Q
CR \$M	GS %C	- -	=	%H	M M] %M	m +M	} %R
SO \$N	RS %D	. .	>	%I	N N	^ %N	n +N	~ %S
SI \$O	US %E	/ /O	?	%J	O O	_ %O	o +O	DEL %T

キャラクタペアの「/M」と「/N」は、それぞれマイナス記号とピリオドになります。「/P」から「/Y」までは、「0」～「9」になります。



C39ASCII1.

Full ASCII On
(Full ASCII 有効)



C39ASCII0.

*** Full ASCII Off**
(Full ASCII 無効)

Code 39 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ページ A-6](#)の『印刷バーコードのコードページマッピング』を参照）、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save（保存）** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。



C39DCP.

Code 39 Code Page
(Code 39 コードページ)

Interleaved 2 Of 5 (ITF)

【 Interleaved 2 of 5 すべての設定を初期化】



Interleaved 2 Of 5 (ITF) の有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

チェックデジット

No Check Digit (チェックデジットなし) は、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない) に設定すると、チェックデジットが印刷された ITF バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

Validate and Transmit (有効、送信する) に設定すると、チェックデジットが印刷された ITF バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。

初期設定値 = No Check Digit (チェックデジットなし)



* No Check Digit
(チェックデジット 無効)



Validate, but Don't Transmit
(有効、送信しない)



Validate and Transmit
(有効、そして送信する)

Interleaved 2 of 5 (ITF) の読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 2 ~ 80 最短の初期設定値 = 4 最長の初期設定値 = 80



Minimum Message Length
(最小桁数)



Maximum Message Length
(最大桁数)

Code 93

【 Code 93 すべての設定を初期化 】



C93DFT.

Code 93 有効/無効



C93ENA1.

* On
有効



C93ENA0.

Off
無効

Code 93 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 0 ~ 80

最短の初期設定値 = 0

最長の初期設定値 = 80



C93MIN.

Minimum Message Length
最小読み取り桁数



C93MAX.

Maximum Message Length
最大読み取り桁数

Code 93 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し ([ページ A-6](#) の「印刷バーコードのコードページマッピング」を参照)、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。



C93DCP.

Code 93 Code Page
(Code 93 コードページ)

Straight 2 of 5 Industrial (3 バーススタート/ストップ)

【 Straight of 5 Industrial すべての設定を初期化 】



Straight 2 of 5 Industrial 有効/無効



R25ENA1.

* On
(有効)



R25ENA0.

Off
(無効)

Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~ 48

最短の初期設定値 = 4

最長の初期設定値 = 48



R25MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



R25MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Straight 2 of 5 IATA (2 バーススタート/ストップ)

【 IATA すべての設定を初期化 】



Straight 2 of 5 IATA 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~ 48

最短の初期設定値 = 4

最長の初期設定値 = 48



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Matrix 2 of 5

【 Matrix 2 of 5 すべての設定を初期化 】



Matrix 2 of 5 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Matrix 2 of 5 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~ 80

最短の初期設定値 = 4

最長の初期設定値 = 80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 11

【Code 11 すべての設定を初期化】



C11DFT.

Code 11 有効/無効



C11ENA1.

On
(有効)



C11ENA0.

* Off
(無効)

チェックデジットの要求

Code 11 バーコードに必要なチェックデジットを1つまたは2つに設定します。
初期設定値 = Two Check Digits (チェックデジット2つ)



C11CK20.

One Check Digit
(チェックデジット1つ)



C11CK21.

* Two Check Digit
(チェックデジット2つ)

Code 11 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~ 80 最短の初期設定値 = 4 最長の初期設定値 = 80



C11MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



C11MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 128

【 Code 128 すべての設定を初期化 】



Code 128 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

ISBT 128 連結機能

1994年、国際輸血学会（ISBT）は、血液の重要情報を一定の方法でやり取りするための基準を定めました。ISBTフォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT 128のアプリケーション仕様では、次の内容を規定しています。1) 血液製品にラベル表示をするための重要なデータ要素、2) セキュリティが高度で設計のスペース効率が良いことから Code 128 の使用を現在は推奨すること、3) 隣接シンボルの連結をサポートする Code 128 の変形、4) 血液製品ラベルのバーコードの標準レイアウト。
初期設定値 = Off (無効)



On
(有効)



* Off
(無効)

Code 128 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 0 ~80 最短の初期設定値 = 04 最長の初期設定値 = 80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 128 コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し ([ページ A-6](#) の「印刷バーコードのコードページマッピング」を参照)、本書の裏表紙の内側にあるプログラミングチャートから値と **Save (保存)** のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されます。



Code 128 Code Page
(Code 128 コードページ)

Code 128 ファンクションコードの送信

初期設定では、Code 128 のファンクションコードはバーコードのデータと一緒に送信されません。Code 128 のバーコードデータと一緒にファンクションコードを送信する場合は、下記の **Function Codes On (ファンクションコード有効)** を読み取ってください。

初期設定値 = Off (無効)



* Function Codes Off
(ファンクションコード 無効)



Function Codes On
(ファンクションコード 有効)

Telepen

【 Telepen すべての設定を初期化 】



Telepen 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Telepen の出力

AIM Telepen Output を使用すると、スキャナはスタート/ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、標準の Full ASCII (スタート/ストップパターン 1) としてデコードします。**Original Telepen Output (Telepen のオリジナル出力)** を選択すると、スタート/ストップパターン 1 のシンボルを読み取り、オプションの Full ASCII (スタート/ストップパターン 2) を含む圧縮された数値としてデコードします。

初期設定値 = AIM Telepen Output (AIM Telepen 出力)



* AIM Telepen Output
(AIM Telepen 出力)



Original Telepen Output
(オリジナル Telepen 出力)

Telepen 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~60 最短の初期設定値 = 1 最長の初期設定値 = 60



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

UPC-A

【UPC-A すべての設定を初期化】



UPC-A 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

UPC-A チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定値 = On (有効)



* On
(有効)



Off
(無効)

UPC-A システム番号

通常は読み取ったデータの最初に UPC シンボルのシステム番号を送信しますが、送信しないように設定できます。
初期設定値 = On (有効)



UPC-A 追加デジット

読み取ったすべての UPC-A データの最後に 2 桁または 5 桁を追加します。
初期設定値 = 2 Digit Addenda Off, 5 Digit Addenda Off (2 桁または 5 桁の追加を無効)



UPC-A 追加デジットの要求

Addenda Required (追加デジットの要求) バーコードを読み取ると、スキャナは追加デジットのある UPC-A バーコードだけを読み取ります。

初期設定 = Not Required (要求しない)



UPAARQ1

Required
(要求する)



UPAARQ0

*** Not Required**
(要求しない)

UPC-A 追加デジットセパレーター

この機能を有効にすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。

初期設定値 = On (有効)



UPAADS1

*** On**
(有効)



UPAADS0

Off
(無効)

拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用し、拡張クーポンコード付き UPC-A および EAN-13 を有効または無効にします。

初期設定値 = On (有効)



CPNENA1

On
(有効)



CPNENA0

*** Off**
(無効)

UPC-E

【UPC-E すべての設定を初期化】



UPC-E0 および UPC-E1 有効/無効

ほとんどの UPC バーコードは、「0」のシステム番号で始まります。これらのバーコードには、UPC-E0 の設定を使用します。「1」のシステム番号で始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、UPC-E1 を使用します。
初期設定値 = On (有効)



UPEEN01.
* **UPC-E0 On**
(UPC-E0 有効)



UPEEN11.
UPC-E1 On
(UPC-E1 有効)



UPEEN00.
UPC-E0 Off
(UPC-E0 無効)



UPEEN10.
* **UPC-E1 Off**
(UPC-E1 無効)

UPC-E0 および UPC-E1 の拡張

UPC-E 拡張バーコードを 12 桁の UPC-E フォーマットに拡張します。
初期設定値 = Off (無効)



UPEEXP1

On
(有効)



UPEEXP0

* Off
(無効)

UPC-E0 および UPC-E1 追加デジットの要求

Addenda Required (追加デジットの要求) を読み取ると、スキャナは追加デジットのある UPC-E バーコードだけを読み取ります。

初期設定値 = Not Required (要求しない)



UPEARQ1

Required
(要求する)



UPEARQ0

* Not Required
(要求しない)

UPC-E0 および UPC-E1 追加デジットセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。

初期設定値 = On (有効)



UPEADS1

* On
(有効)



UPEADS0

Off
(無効)

UPC-E0 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定します。

初期設定値 = On (有効)



UPECKX1

* On
(有効)



UPECKX0

Off
(無効)

UPC-E0 システム番号

通常は読み取ったデータの最初に UPC シンボルのシステム番号を送信しますが、送信しないようにも設定できます。送信しないようにするには、**Off (無効)** を読み取ります。

初期設定値 = On (有効)



UPENSX1

*** On**
(有効)



UPENSXD

Off
(無効)

UPC-E0 追加デジット

読み取ったすべての UPC-E データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。

初期設定値 = 2 Digit Addenda Off and 5 Digit Addenda Off (2 桁および 5 桁両方の追加を無効)



UPEAD21

2 Digit Addenda On
(2 桁の追加 有効)



UPEAD20

*** 2 Digit Addenda Off**
(2 桁の追加 無効)



UPEAD51

5 Digit Addenda On
(5 桁の追加 有効)



UPEAD50

*** 5 Digit Addenda Off**
(5 桁の追加 無効)

EAN/JAN 13

【 EAN/JAN すべての設定を初期化 】



E13DFT.

EAN/JAN 13 有効/無効



E13ENA1.

* On
(有効)



E13ENA0.

Off
(無効)

EAN/JAN 13 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定値 = On (有効)



E13CKX1.

* On
(有効)



E13CKX0.

Off
(無効)

EAN/JAN 13 追加デジット

読み取ったすべての EAN/JAN-13 データの最後に 2 桁または 5 桁を追加します。

初期設定 = 2 Digit Addenda Off and 5 Digit Addenda Off (2 桁および 5 桁の追加を無効)



E13AD21.

2 Digit Addenda On
(2 桁の追加 有効)



E13AD51.

5 Digit Addenda On
(5 桁の追加 有効)



E13AD20.

*** 2 Digit Addenda Off**
(2 桁の追加 無効)



E13AD50.

*** 5 Digit Addenda Off**
(5 桁の追加 無効)

EAN/JAN 13 追加デジットの要求

Addenda Required (追加デジットの要求) を読み取ると、スキャナは追加デジットのある EAN/JAN-13 バーコードだけを読み取ります。

初期設定値 = Not Required (要求しない)



E13ARQ1.

Required
(要求する)



E13ARQ0.

*** Not Required**
(要求しない)

EAN/JAN 13 追加デジットセパレータ

この機能を有にすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。無効にすると、スペースはできません。

初期設定値 = On (有効)



E13ADS1.

* On
(有効)



E13ADS0.

Off
(無効)

注意: 拡張クーポンコード付き EAN13 を有効または無効にしたい場合は、拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13 ([ページ 6-23](#)) を参照してください。

ISBN の変換

この機能を有効にすると、EAN-13 Bookland シンボルが同等の ISBN 番号フォーマットに変換されます。

初期設定値 = Off (無効)



E13ISB1.

* On
(有効)



E13ISB0.

Off
(無効)

EAN/JAN 8

【 EAN/JAN 8 すべての設定を初期化 】



EAN/JAN 8 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

EAN/JAN 8 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。
初期設定値 = On (有効)



* On
(有効)



Off
(無効)

EAN/JAN 8 追加デジット

読み取ったすべての EAN/JAN-8 データの最後に 2 桁または 5 桁のデジットを追加します。
初期設定 = 2 Digit Addenda Off, 5 Digit Addenda Off (2 桁および 5 桁両方の追加を無効)



EA8AD21.

2 Digit Addenda On
(2 桁の追加 有効)



EA8AD51.

5 Digit Addenda On
(5 桁の追加 有効)



EA8AD20.

*** 2 Digit Addenda Off**
(2 桁の追加 無効)



EA8AD50.

*** 5 Digit Addenda Off**
(5 桁の追加 無効)

EAN/JAN 8 追加デジットの要求

Addenda Required (追加デジットの要求) を読み取ると、スキャナは追加デジットのある EAN/JAN-8 バーコード
だけを読み取ります。

初期設定値 = Not Required (要求しない)



EA8ARQ1.

Required
(要求する)



EA8ARQ0.

Not Required
(要求しない)

EAN/JAN 8 追加デジットセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータと追加デジットデータとの間にスペースができます。無効にすると、
スペースはできません。

初期設定値 = On (有効)



EA8ADS1.

*** On**
(有効)



EA8ADS0.

Off
(無効)

MSI

【MSI すべての設定を初期化】



MSI 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

MSI チェックキャラクタ

MSI バーコードにはいろいろな種類のチェックキャラクタが使用されていますが、ここではタイプ 10 のチェックキャラクタのある MSI バーコードを読み取るようにスキャナを設定できます。

初期設定値 = Validate Type 10, but Don't Transmit (タイプ 10 有効、送信しない)

Validate and Transmit (有効、そして送信する) に設定すると、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない) に設定した場合は、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷された MSI バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは読み取ったデータといっしょに送信しません。



* Validate Type 10, but Don't Transmit
(Type 10 有効、送信しない)



Validate and Transmit
(有効、送信する)

MSI 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 4 ~48、最短の初期設定値 =4、最長の初期設定値 = 48



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Plessey Code

【Plessey Code すべての設定を初期化】



Plessey Code 有効/無効



PLSENA1.
On
(有効)



PLSENA0.
* Off
(無効)

Plessey Code 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 4 ~ 48、最短の初期設定値 = 4、最長の初期設定値 = 48



PLSMIN.
Minimum Message Length
(最小読取桁数)



PLSMAX.
Maximum Message Length
(最大読取桁数)

GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル)

【GS1 データバー 標準型 すべての設定を初期化】



GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル) 有効/無効



RSSENA1.

* On
(有効)



RSSENA0.

Off
(無効)

GS1 データバー限定型 (リミテッド)

【GS1 データバー限定型 すべての設定を初期化】



GS1 データバー限定型 (リミテッド) 有効/無効



RSLENA1.

* On
(有効)



RSLENA0.

Off
(無効)

GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド)

【GS1 データバー拡張型 すべての設定を初期化】



GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド) 有効/無効



* On
(有効)



Off
(無効)

GS1 データバー拡張型 (エクспанデッド) 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 4 ~74、最短の初期設定値 =4、最長の初期設定値 =74



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

China Post Code (中国郵便コード)

【China Post Code すべての設定を初期化】



China Post Code (中国郵便コード) 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

China Post Code (中国郵便コード) 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 2 ~80、最短の初期設定値 =4、最長の初期設定値 = 80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Korea Post Code (韓国郵便コード)

【 Korea Post Code すべての設定を初期化 】



Korea Post Code (韓国郵便コード) 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Korea Post Code (韓国郵便コード)

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 2 ~ 80、最短の初期設定値 = 4、最長の初期設定値 = 80



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Codablock F

【Codablock F すべての設定を初期化】



Codablock F 有効/無効



On
(有効)



* Off
(無効)

Codablock F 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~ 2,048、最短の初期設定値 = 1、最長の初期設定値 = 2,048



Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Code 49

【 Code 49 すべての設定を初期化 】



C49DFT.

Code 49 有効/無効



C49ENA1.

On
(有効)



C49ENA0.

*Off
(無効)

Code 49 読み取り桁数

読み取り桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については読み取り桁数について ([ページ 6-2](#)) を参照してください。

設定可能桁数 = 1 ~81、最短の初期設定値 =1、最長の初期設定値 = 81



C49MIN.

Minimum Message Length
(最小読み取り桁数)



C49MAX.

Maximum Message Length
(最大読み取り桁数)

Trioptic Code

Trioptic Code は、磁気記録媒体のラベル表示に使用されます。



TRIENA1.

On
(有効)



TRIENA0.

*** Off**
(無効)

GS1 エミュレーション

スキャナは GS1 データキャリアの出力を自動的にフォーマットし、同等の GS1-128 もしくは GS1 データバーでエンコードされるようエミュレートすることができます。GS1 データキャリアには UPC-A、UPC-E、EAN-13、EAN-8、ITF-14、GS1-128、GS1-128 データバー、そして GS1 Composite が含まれます。

GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション) を選択すると、AIM シンボル ID が「]C1」となります。**GS1 Dtabar Emulation (GS1 データバーエミュレーション)** を選択すると、AIM シンボル ID が「]e0」となります。GS1 データに対応するアプリケーションは、いずれも単純化できます。データキャリアのタイプを 1 つで認識するだけで済むためです。



EANEMU2.

GS1 Databar Emulation
(GS1 データバー エミュレーション)



EANEMU0.

*** GS1 Emulation Off**
(GS1 エミュレーション 無効)



EANEMU1.

GS1-128 Emulation
(GS1-128 エミュレーション)

Label Code

標準の Label Code は、図書館などで使用されます。



LBLENA1.
* On
(有効)



LBLENA0.
Off
(無効)

インターフェースキー

キーボードの機能

以下のキーボードファンクションコード、HEX/ASCII 値、Full ASCII「CTRL」+ は、スキャナと用いられるすべてのターミナルで適用されます。[ページ 2-12](#) 「Control + ASCII 有効化モード」の項目を参照してください。

ファンクションコード	HEX/ASCII 値	Full ASCII “CTRL” +
NUL	00	2
SOH	01	A
STX	02	B
ETX	03	C
EOT	04	D
ENQ	05	E
ACK	06	F
BEL	07	G
BS	08	H
HT	09	I
LF	0A	J
VT	0B	K
FF	0C	L
CR	0D	M
SO	0E	N
SI	0F	O
DLE	10	P
DC1	11	Q
DC2	12	R
DC3	13	S
DC4	14	T
NAK	15	U
SYN	16	V
ETB	17	W
CAN	18	X
EM	19	Y
SUB	1A	Z
ESC	1B	[
FS	1C	\
GS	1D]
RS	1E	6
US	1F	-

「Full ASCII「CTRL」+」の列にある最後の5つのキャラクタ（[\]6-）は、米国でのみ対応します。
 次の表は、これらの5つのキャラクタの国別の同等キャラクタを示します。

国名			コード		
アメリカ	[\]	6	-
ベルギー	[<]	6	-
スカンジナビア	8	<	9	6	-
フランス	^	8	\$	6	=
ドイツ		⌘	+	6	-
イタリア		\	+	6	-
スイス		<	..	6	-
イギリス	[¢]	6	-
デンマーク	8	\	9	6	-
ノルウェー	8	\	9	6	-
スペイン	[\]	6	-

対応するインターフェースキー

ASCII	HEX	IBM、DDC、Memorex Telex、Harris*の サポートキー
NUL	00	Reserved
SOH	01	Enter (KP)
STX	02	Caps Lock
ETX	03	ALT make
EOT	04	ALT break
ENQ	05	CTRL make
ACK	06	CTRL break
BEL	08	CR/Enter
BS	08	Reserved
HT	09	Tab
LF	0A	Reserved
VT	0B	Tab
FF	0C	Delete
CR	0D	CR/Enter
SO	0E	Insert
SI	1F	Escape
DLE	10	F11
DC1	11	Home
DC2	12	Print
DC3	13	Back Space
DC4	14	Back Tab
NAK	15	F12
SYN	16	F1
ETB	17	F2
CAN	18	F3
EM	19	F4
SUB	1A	F5
ESC	1B	F6
FS	1C	F7
GS	1D	F8
RS	1E	F9
US	1F	F10

* IBM 3191/92、3471/72、3196/97、3476/77、Telex (全モデル)

対応するインターフェースキー

ASCII	HEX	IBM、DDC、Memorex Telex、Harris*の サポートキー
NUL	00	Reserved
SOH	01	Enter/Numpad Enter
STX	02	CAPS
ETX	03	ALT make
EOT	04	ALT break
ENQ	05	CTRL make
ACK	06	CTRL break
BEL	08	RETURN
BS	08	APPLE make
HT	09	TAB
LF	0A	APPLE break
VT	0B	TAB
FF	0C	Del
CR	0D	RETURN
SO	0E	Ins help
SI	1F	ESC
DLE	10	F11
DC1	11	Home
DC2	12	Prnt Scrn
DC3	13	BACK SPACE
DC4	14	LSHIFT TAB
NAK	15	F12
SYN	16	F1
ETB	17	F2
CAN	18	F3
EM	19	F4
SUB	1A	F5
ESC	1B	F6
FS	1C	F7
GS	1D	F8
RS	1E	F9
US	1F	F10
DEL	7F	BACKSPACE

ユーティリティ

すべてのシンボルにコードID プリフィクスを一時的に追加

これを選択すると、デコードされたシンボルの前にコードIDを送信することができます。（各シンボルを識別する単独のシンボルキャラクタコードについては、[ページ A-1](#)のシンボルチャートを参照してください。）ここでは、まず現在設定されているプリフィクスをすべて消去し、その後すべてのシンボルにコードIDのプリフィクスを設定します。これは、電源を入れなおすと削除される一時的な設定です。



PRECA2,BK2995C80!

Add Code ID Prefix to All Symbologies (Temporary)
(すべてのシンボルにコードIDのプリフィクスを一時的に追加)

ソフトウェア番号の表示

下記のバーコードを読み取ると、ソフトウェアのバージョン番号、スキャナのシリアルナンバー、およびその他の製品情報を出力します。



REVINF.

Show Revision
(バージョンの表示)

データフォーマットの表示

下記のバーコードを読み取って、データフォーマットの設定内容を表示します。



DFMBK3?.

Data Format Settings
(データフォーマットの表示)

標準製品初期設定へリセット

もしお使いのスキヤナに設定されている項目が判らなくなったり、またはいくつかの項目を設定し、標準製品初期設定に戻りたい場合は、下記の **Standard Product Default Settings**（標準製品初期設定に戻す）を読み取ってください。



Standard Product Default Settings (標準製品初期設定に戻す)

[ページ 9-5](#) 以降に記載されるメニューコマンドの章に各設定の初期設定値が記載されています。初期設定値には各々*（アスタリスク）が付いていますので、ご確認ください。

EZConfig について

EZConfig は、PC の COM ポートにスキヤナを接続することにより、PC 上で様々な機能をご利用いただけます。ファームウェアをダウンロードしてスキヤナの機能をアップデートしたり、設定内容を変更したり、設定バーコードを作成して印刷することもできます。更に、スキヤナの設定をファイルで保存し、後ほど開くこともできます。この設定ファイルは電子メールで送信できるため、必要であれば、ユーザーの使用環境に合わせてカスタマイズされた設定項目をすべて一つのバーコードにまとめ、かつ印刷することができますので、どこへでもメールやファックスで送信することができます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードを読み取り、カスタマイズされた設定を組み込むことができます。

スキヤナおよび PC 間の通信を確立するためには、コンピュータに空き RS232C シリアル通信ポートか、または物理的な USB ポートを使用したシリアルエミュレーション（仮想 COM ポート）が少なくとも 1 つ必要です。シリアルポートと RS-232 ケーブルを使用する場合は、外部電源が必要です。USB シリアルエミュレーションを使用する場合は、USB ケーブルのみ必要です。

EZConfig の操作

EZConfig ソフトウェアでは、以下の操作を行うことができます。

Scan Data（データの読み取り）

Scan Data（データの読み取り） は、読み取ったバーコードデータをウィンドウに表示することができます。シリアルコマンドをスキヤナに送信でき、スキヤナからの応答を受信することが可能です。**Scan Data** では、これらを画面で確認することができます。**Scan Data** に表示されるデータは、ファイルに保存、または印刷することもできます。

Configure（設定）

Configure（設定） は、スキヤナの設定状態およびその他設定項目を表示します。スキヤナの設定はその機能に基づいて、各々異なるカテゴリに分類されています。**Application Explorer** 下に **Configure** がツリーノード形式で表示され、各カテゴリはそのツリーノードとして表示されます。これらのツリーノードの一つをクリックすると、そのカテゴリに所属するパラメータのフォームが右側に表示されます。**Configure** のツリーオプションには、スキヤナに施されている設定項目とその他設定が含まれています。これら設定は、必要に応じて設定、または変更できます。変更した設定値をスキヤナに書き込んだり、dcf ファイルとして保存することも可能です。

ウェブサイトから EZConfig をインストールする

注意 : EZConfig には .NET ソフトウェアが必要です。お使いの PC に .NET がインストールされていない場合、EZConfig のインストール時に .NET のインストールを促すメッセージが表示されます。

1. ハネウェルのウェブサイト (www.honeywellaidc.com) にアクセスします。
2. **ダウンロード** をクリックし、**ソフトウェア** を選択します。
3. ドロップダウンメニューから **Hyperion 1300g Linear Imaging Scanner** を選択します。
4. **Tools and Utility** から **EZConfig** をクリックします。
5. 指示が出たら、**Save File** を選択し、ファイルを **c:\windows\temp** ディレクトリに保存します。
6. ファイルのダウンロードが終了したらウェブサイトを閉じます。
7. エクスプローラを使用し、**c:\windows\temp** のファイルに進みます。
8. **Setup.exe** ファイルをダブルクリックします。画面の指示に従って EZConfig をインストールします。インストール時にデフォルトを選択した場合は、**Start Menu-All Programs-Honeywell-EZConfig** をクリックしてください。

シリアルプログラミングコマンド

スキャナはシリアルプログラミングコマンドと設定バーコードのどちらでも設定変更することができますが、この章では設定バーコードではなく、シリアルプログラミングコマンドを使用して設定変更を行います。各シリアルプログラミングコマンドの説明と例については、本書記載の設定バーコードを参照してください。

スキャナは、RS-232 インターフェースに設定する必要があります（[ページ 2-2](#) を参照）。下記のコマンドは、ターミナルエミュレーションソフトを用いて PC の COM ポート 経由で送信できます。

記述上の語句

メニューと質問コマンドの記述は、以下のように定められています。

ParameterA	コマンドの一部として送信する実際の値
[option]	コマンドのオプション部分
{Data}	コマンド内の選択肢
Bold	画面に表示されるメニュー名、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックスおよびウィンドウ

メニューコマンドシンタックス (構文)

メニューコマンドのシンタックスは以下のとおりです。見やすくするためスペースを用いています。ご了承ください。

Prefix Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [; Tag SubTag {Data}] [...] Storage

Prefix	3 つの ASCII キャラクタ : SYN M CR (ASCII 22、77、13)
Tag	メニューコマンドグループを識別する、大文字/小文字の区別が無い 3 キャラクタのフィールド。例えば、RS232 の設定は、すべて 232 という Tag で識別されます。
SubTag	タググループの中のメニューコマンドグループを識別する、大文字/小文字の区別が無い 3 キャラクタのフィールド。例えば、RS232 ボーレートの SubTag は BAD 。
Data	メニュー設定の新規値。Tag と SubTag で識別されます。
Storage	コマンドが適用されるストレージテーブルを指定する、1 つのキャラクタ。感嘆符 (!) は、スキャナの一時的メモリー上でのコマンド操作を実行します。ピリオド (.) の場合は、スキャナの不揮発性メモリー上でコマンド操作を実行します。不揮発性メモリーは、始動時に保存したい半恒久的な変更の場合だけに使用します。

質問コマンド

設定についてスキャナから返答を得るため、いくつかの特殊キャラクタを使用できます。

^	設定の初期値
?	スキャナの現在の設定値
*	設定で可能な範囲（機器のレスポンスでは、ダッシュ (-) で値の連続範囲を示し、パイプ () で）不連続値の一覧の項目を区切ります。

Tag フィールドとしての使用方法

Tag フィールドに代わって質問（クエリー）を行うと、コマンドの Storage フィールドで示された特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドのセット全体に質問します。この場合、スキャナには無視されるため、SubTag および Data フィールドは使用しないでください。

SubTag フィールドとしての使用方法

SubTag フィールドに代わって質問を行うと、Tag フィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットだけに質問します。この場合、スキャナには無視されるので Data フィールドは使用しないでください。

Data フィールドとしての使用方法

Data フィールドに代わって質問を行うと、Tag および SubTag フィールドで識別される特定コマンドだけに質問します。

複数コマンドの連結機能

複数のコマンドを 1 つの Prefix/Storage シーケンス内で使用できます。シーケンスのコマンドごとに繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、および Data フィールドだけです。同じ Tag でコマンドを追加する場合は、新しいコマンドシーケンスをコンマ (,) で区切り、追加コマンドの SubTag および Data フィールドだけを記述します。追加コマンドで異なる Tag フィールドが必要な場合は、そのコマンドをセミコロン (;) で前のコマンドと区切ります。

レスポンス

機器は、次の 3 つのレスポンスの内、いずれかをシリアルコマンドへ応答します。

- ACK** 正しくコマンドを実行
- ENQ** Tag または SubTag コマンドが無効
- NAK** コマンドは正しいが、Data フィールドの入力がこの Tag および SubTag 組み合わせの許容範囲外。例えば、フィールドが 2 キャラクタしか受け付けないときに最小読み取り桁数の入力が 100 になっている場合。

応答の際、スキャナはコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、コンマ、またはセミコロン）の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスを返します。

質問コマンドの例

以下の例では、角カッコ [] が非表示レスポンスを意味します。

例： Codabar Coding Enable で可能な値の範囲は？

入力： cbrena*.

レスポンス： **CBRENA0-1[ACK]**

例： Codabar Coding Enable の初期設定値は？

入力： cbrena^.

レスポンス： **CBRENA1[ACK]**

Codabar Coding Enable (CBRENA) の初期設定が 1、または有効であることを示しています。

例： Codabar Coding Enable に関する現在のスキャナ設定は？

入力： cbrena?.

レスポンス： **CBRENA1[ACK]**

機器の Codabar Coding Enable (CBRENA) が 1、または有効に設定されていることを示します。

例： すべての Codabar 選択項目に対するスキャナの設定は？

入力： cbr?.

レスポンス： **CBRENA1[ACK],**
 SSX0[ACK],
 CK20[ACK],
 CCT1[ACK],
 MIN2[ACK],
 MAX60[ACK],
 DFT[ACK].

このレスポンスは、スキャナの Codabar Coding Enable (CBRENA) が 1、または有効に設定され、スタート/ストップキャラクタ (SSX) は 0、または Don't Transmit (送信しない) に、チェックキャラクタ (CK2) は 0、または Not Required (要求しない) に、連結機能 (CCT) は 1、または Enabled (有効) に、最小読み取り桁数 (MIN) は 2 キャラクタに、最大読み取り桁数 (MAX) は 60 キャラクタに、また初期設定 (DFT) には値が無いことを示しています。

トリガーコマンド

シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動または停止することができます。まず、マニュアル／シリアルトリガーモードのバーコード（[ページ 3-5](#)）を読み取るか、トリガー用のシリアルメニューコマンド（[ページ 9-5](#)）を送り、スキャナをマニュアルトリガーモードにします。スキャナが一旦シリアルトリガーモードになると、以下のコマンドを送信してトリガーを起動/停止できます。

起動する： **SYN T CR**

停止する： **SYN U CR**

スキャナはバーコードを読み取るか、起動コマンドを受信するか、シリアルタイムアウトになるまで読み取りを実行します。（説明については[ページ 3-5](#)の『読み取りタイムアウト』を、また[ページ 9-5](#)のシリアルコマンドを参照。）

標準製品初期設定へのリセット

お使いのスキャナの設定状態が判らない場合や、設定変更後にスキャナを工場出荷時初期設定へ戻したい場合は、下記の標準製品初期設定を読み取ります。



DEFAULT.

Standard Product Default Settings

(標準製品初期設定に戻す)

各コマンドの工場出荷時初期設定値が記載されています。プログラミングページで*（アスタリスク）で示されています。

メニューコマンド

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
工場出荷時初期設定	デフォルト	DEFAULT.	1-5
インターフェースの設定			
プラグアンドプレイコード： キーボードウェッジ	IBMのPCまたは互換機のPS2接続 (CR サフィックス付き)	PAP_AT.	2-1
	ノートPCへ直接接続 (CRサフィックス付き)	PAPLTD.	2-1
	RS232 インターフェース	PAP232.	2-2
プラグアンドプレイコード： RS485	IBM ポート 5B インターフェース	PAPP5B.	2-3
	IBM ポート 9B HHBCR-1 インターフェース	PAP9B1.	2-3
	IBM ポート 17 インターフェース	PAPP17.	2-3
	IBM ポート 9B HHBCR-2 インターフェース	PAP9B2.	2-3
プラグアンドプレイコード： OPOSモード	OPOSモード	PAPOPS.	2-4
プラグアンドプレイコード： IBM SurePos	USB IBM SurePOS ハンドヘルドスキャナ インターフェース	PAPSPH.	2-5
	USB IBM SurePOS USB卓上スキャナ インターフェース	PAPSPT.	2-5
プラグアンドプレイコード： USB	PC USBキーボード	PAP124.	2-6
	Mac USBキーボード	PAP125.	2-6
	USB HID バーコードスキャナ	PAP131.	2-6
USBシリアルコマンド	USB シリアルエミュレーション	PAP130.	2-6
	CTS/RTS エミュレーション 有効	USBCTS1.	2-7
	CTS/RTS エミュレーション 無効	USBCTS0.	2-7
	ACK/NAK モード 有効	USBACK1.	2-7
	ACK/NAK モード 無効*	USBACK0.	2-7

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
国別キーボード	* 米国	KBDCTY0.	2-8
	ベルギー	KBDCTY1.	2-8
	デンマーク	KBDCTY8.	2-8
	フィンランド	KBDCTY2.	2-8
	フランス	KBDCTY3.	2-8
	ドイツ/オーストリア	KBDCTY4.	2-8
	英国	KBDCTY7.	2-8
	イタリア	KBDCTY5.	2-9
	ノルウェー	KBDCTY9.	2-9
	スペイン	KBDCTY10.	2-9
	スイス	KBDCTY6.	2-9
キーボードウェッジスタイル	* レギュラー	KBDSTY0.	2-10
	Capsロック	KBDSTY1.	2-10
	Shiftロック	KBDSTY2.	2-10
	自動Capsロック	KBDSTY6.	2-10
	Numロック経由でAutocaps	KBDSTY7.	2-10
	外付けキーボードエミュレーション	KBDSTY5.	2-11
キーボードの設定	ウィンドウズモード Ctrl + ASCIIモード有効	KBDCAS2.	2-12
	* Ctrl + ASCIIモード無効	KBDCAS0.	2-12
	DOSモード Ctrl + ASCIIモード有効	KBDCAS1.	2-12
	数字キーパッドモード有効	KBDNPS1.	2-12
	* 数字キーパッドモード無効	KBDNPS0.	2-12
	自動直接接続モード有効	KBDADC1.	2-12
	自動直接接続モード無効	KBDADC0.	2-12

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
シリアルポート	RS232C シリアルエミュレーション	PAP232.	2-2
ボーレート	300	232BAD0.	2-13
	600	232BAD1.	2-13
	1,200	232BAD2.	2-13
	2,400	232BAD3.	2-13
	4,800	232BAD4.	2-13
	9,600	232BAD5.	2-13
	19,200	232BAD6.	2-13
	* 38,400	232BAD7.	2-13
	57,600	232BAD8.	2-13
	115,200	232BAD9.	2-13
ワード長： データビット ストップビット パリティ	7 データビット、1 ストップビット、偶数パリティ	232WRD3.	2-14
	7 データビット、1 ストップビット、パリティ なし	232WRD0.	2-14
	7 データビット、1 ストップビット、奇数パリティ	232WRD6.	2-14
	7 データビット、2 ストップビット、偶数パリティ	232WRD4.	2-14
	7 データビット、2 ストップビット、パリティ なし	232WRD1.	2-14
	7 データビット、2 ストップビット、奇数パリティ	232WRD7.	2-14
	8 データビット、1 ストップビット、偶数パリティ	232WRD5.	2-14
	* 8 データビット、1 ストップビット、パリティ なし	232WRD2.	2-14
	8 データビット、1 ストップビット、奇数パリティ	232WRD8.	2-14

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
RS232 ハンドシェイク	* RTS/CTS 無効	232CTS0.	2-15
	RTS/CTS 有効	232CTS1.	2-15
	* XON/XOFF 無効	232XON0.	2-15
	XON/XOFF 有効	232XON1.	2-15
	* ACK/NAK 無効	232ACK0.	2-16
	ACK/NAK	232ACK1.	2-16
出力設定			
ブザー：読み取り成功時	無効	BEPBEP0.	3-1
	* 有効	BEPBEP1.	3-1
ブザー音量： 読み取り成功時	無効	BEPLVL0.	3-1
	小	BEPLVL1.	3-1
	中	BEPLVL2.	3-1
	* 大	BEPLVL3.	3-1
ブザー音程： 読み取り成功時(周波数)	低 (1600Hz)	BEPFQ11600.	3-2
	* 中(2750Hz)	BEPFQ12750.	3-2
	高 (4200Hz)	BEPFQ14200.	3-2
ブザーの長さ： 読み取り成功時	* 通常	BEPBIP0.	3-2
	短音	BEPBIP1.	3-2
ブザー音程： 読み取り失敗時およびエラー時	* 低 (100Hz)	BEPFQ2100.	3-3
	* 中(2000Hz)	BEPFQ22000.	3-3
	高(4200Hz)	BEPFQ24200.	3-3
LED：読み取り成功時	無効	BEPLD0.	3-3
	* 有効	BEPLD1.	3-3
ブザー回数： 読み取り成功時	* 1	BEPRPT1.	3-3
	1～9回	BEPRPT#.	3-3
読み取り成功時のディレイ (間隔)	* ディレイなし	DLYGRD0.	3-4
	短いディレイ(500ms)	DLYGR500.	3-4
	中位のディレイ(1000ms)	DLYGRD1000.	3-4
	長いディレイ(1500ms)	DLYGRD1500.	3-4
ユーザー指定のディレイ (間隔)	0～30,000ms	DLYGRD####.	3-4

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
トリガーモード	* マニュアル/シリアルトリガー	TRMOD0.	3-5
	読み取りタイムアウト(0 ~ 300,000ms) *30,000	TRGSTO####.	3-5
	自動トリガー	TRGMOD1.	3-5
	プレゼンテーションモード	TRGMOD3.	3-6
	連続照明モード有効	ILLAON1.	3-6
	* 連続照明モード無効	ILLAON0.	3-6
	ハンズフリータイムアウト(0 ~ 300,000秒) *5,000	TRG-PTO#####.	3-6
再読み取り時のディレイ (間隔)	短いディレイ(500ms)	DLYRRD500.	3-7
	* 中位のディレイ (750ms)	DLYRRD750.	3-7
	長いディレイ(1000ms)	DLYRRD1000.	3-7
	最長ディレイ (2000ms)	DLYRRD3000.	3-7
ユーザー定義による 再読み取り時のディレイ (間隔)	0 ~ 30,000ms	DLYRRD#####.	3-7
センタリング	センタリング有効	DECWIN1.	3-9
	* センタリング無効	DENWIN0.	3-8
	センタリングウィンドウの左*40	DECLFT###.	3-8
	センタリングウィンドウの右*60	DECRGT###.	3-8
アウトプットシーケンスエディタ	シーケンスの入力開始	SEQBLK.	3-10
	シーケンスの初期化	SEQDFT.	3-10
アウトプットシーケンスの要求	要求する	SEQ_EN2.	3-10
	要求しない	SEQ_EN1.	3-10
	* 無効	SEQ_EN0.	3-10
マルチシンボル	有効	SHOTGN1.	3-12
	* 無効	SHOTGN0.	3-12
No Read	No Read 有効	SHWNRD1.	3-13
	* No Read 無効	SHWNRD0.	3-13
色反転バーコード	色反転バーコード 有効	VIDREV1.	3-13
	* 色反転バーコード 無効	VIDREV0.	3-13

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
プリフィクス/サフィックスの設定			
すべてのバーコードにCRサフィックスを追加		VSUFCR.	4-3
プリフィクス	プリフィクスの追加	PREBK2.	4-3
	プリフィクスを1つ削除	PRECL2.	4-3
	プリフィクスをすべて削除	PRECA2.	4-3
サフィックス	サフィックスを追加	SUFBK2.	4-3
	サフィックスを1つ削除	SUFCL2.	4-3
	サフィックスをすべて削除	SUFCA2.	4-3
ファンクションコードの転送	ファンクションコードの送信 有効	RMVFNC0.	4-4
	ファンクションコードの送信 無効	RMVFNC1.	4-4
キャラクタ間のディレー (間隔)		DLYCHR##.	4-4
ユーザー定義のキャラクタ間のディレー (間隔)	ディレーの長さ	DLYCRX##.	4-5
	ディレーを有効にするキャラクタ	DLY_XX###.	4-5
ファンクション間のディレー (間隔)		DLYFNC##.	4-5
メッセージ間のディレー (間隔)		DLYMSG##.	4-6
データフォーマット			
データフォーマットエディタ	* データフォーマット初期設定	DFMDF3.	5-1
	データフォーマット開始	DFMBK3##.	5-2
	データフォーマットを1つ削除	DFMCL3.	5-3
	データフォーマットをすべて削除	DFMCA3.	5-3
データフォーマッタ	無効	DFM_EN0.	5-7
	* 有効、要求しない	DFM_EN1.	5-7
	有効、要求する	DFM_EN2.	5-7

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
読み取りシンボル			
すべてのシンボル	無効	ALLENA1.	6-2
	有効	ALLENA0.	6-2
Codabar	すべての設定を初期化	CBRDFT.	6-3
	無効	CBRENA0.	6-3
	* 有効	CBRENA1.	6-3
Codabar スタート/ストップキャラクタ	* 送信しない	CBRSSX0.	6-3
	送信する	CBRSSX1.	6-3
Codabar チェックキャラクタ	* チェックキャラクタなし	CBRCK20.	6-4
	モジュラス16 有効、送信しない	CBRCK21.	6-4
	モジュラス16 有効、送信する	CBRCK22.	6-4
Codabar 連結	* 無効	CBRCCT0.	6-5
	有効	CBRCCT1.	6-5
	要求する	CBRCCT2.	6-5
Codabar 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2~60) * 4	CBRMIN##.	6-5
	最大読み取り桁数 (2~60) * 60	CBRMAX##.	6-5
Code 39	すべての設定を初期化	C39DFT.	6-6
	無効	C39.ENA0.	6-6
	* 有効	C39ENA1.	6-6
Code 39 スタート/ストップキャラクタ	* 送信しない	C39SSX0.	6-6
	送信する	C39SSX1.	6-6
Code 39 チェックキャラクタ	* チェックキャラクタなし	C39CK20.	6-7
	有効、送信しない	C39CK21.	6-7
	有効、送信する	C39CK22.	6-7
Code 39 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (0~48) * 0	C39MIN##.	6-7
	最大読み取り桁数 (0~48) * 48	C39MAX##.	6-7
Code 39 連結	* 無効	C39APP0.	6-8
	有効	C39APP1.	6-8
Code 39 Pharmaceutical (PARAF)	* 無効	C39B320.	6-8
	有効	C39B321.	6-8
Code 39 Full ASCII	* 無効	C39ASC0.	6-9
	有効	C39ASC1.	6-9
Interleaved 2 of 5 (ITF)	すべての設定を初期化	I25DFT.	6-11
	無効	I25ENA0.	6-11
	* 有効	I25ENA1.	6-11
Interleaved 2 of 5 チェックデジット	* チェックデジット無効	I25CK20.	6-11
	有効、送信しない	I25CK21.	6-11
	有効、送信する	I25CK22.	6-11
Interleaved 2 of 5 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2~80) * 4	I25MIN##.	6-12
	最大読み取り桁数 (2~80) * 80	I25MAX##.	6-12
Code 93	すべての設定を初期化	C93DFT.	6-13
	無効	C93ENA0.	6-13
	* 有効	C93ENA1.	6-13
Code 93 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (0~80) * 0	C93MIN##.	6-13
	最大読み取り桁数 (0~80) * 80	C93MAX##.	6-13

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
Straight 2 of 5 Industrial	Straight 2of 5 Industrial すべての設定の初期化	R25DFT.	6-14
	* 無効	R25ENA0.	6-14
	有効	R25ENA1.	6-14
Straight 2 of 5 Industrial 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~48) *4	R25MIN##.	6-14
	最大読み取り桁数 (1~48) *48	R25MAX##.	6-14
Straight 2 of 5 IATA	Straight 2of 5 IATAすべての設定の初期化	A25DFT.	6-15
	* 無効	A25ENA0.	6-15
	有効	A25ENA1.	6-15
Straight 2 of 5 IATA 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~48) *4	A 25MIN##.	6-15
	最大読み取り桁数 (1~48) *48	A 25MAX##.	6-15
Matrix 2 of 5	Matrix 2of 5 すべての設定の初期化	X25DFT.	6-16
	* 無効	X25ENA0.	6-16
	有効	X25ENA1.	6-16
Matrix 2 of 5 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~80) *4	X25MIN##.	6-16
	最大読み取り桁数 (1~80) *80	X25MAX##.	6-16
Code 11	Code 11 すべての設定の初期化	C11DFT.	6-17
	* 無効	C11ENA0.	6-17
	有効	C11ENA1.	6-17
Code 11 チェックデジットの要求	チェックデジット必要数1	C11CK20.	6-17
	*チェックデジット必要数2	C11CK21.	6-17
Code 11 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~80) *4	C11MIN##.	6-17
	最大読み取り桁数 (1~80) *80	C11MAX##.	6-17
Code 128	Code 128 すべての設定の初期化	128DFT.	6-18
	無効	128ENA0.	6-18
	*有効	128ENA1.	6-18
ISBT 連結機能	* 無効	ISBENA1.	6-18
	有効	ISBENA0.	6-18
Code 128 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (0~80) *0	128MIN##.	6-19
	最大読み取り桁数 (0~80) *80	128MAX##.	6-19
Code 128 ファンクションコードの送信	* 無効	128FNX1.	6-19
	有効	128FNX0.	6-19

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
Telepen	Telepen すべての設定の初期化	TELDFT.	6-20
	*無効	TELENA0.	6-20
	有効	TELENA1.	6-20
Telepen 出力	* AIM Telepen 出力	TELOLD0.	6-20
	オリジナルの出力	TELOLD1.	6-20
Telepen 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~60) *1	TELMIN##.	6-21
	最大読み取り桁数 (1~60) *60	TELMAX##.	6-21
UPC-A	UPC-A すべての設定の初期化	UPADFT.	6-22
	無効	UPAENA0.	6-22
	*有効	UPAENA1.	6-22
UPC-Aチェックデジット	無効	UPACKX0.	6-22
	*有効	UPACKX1.	6-22
UPC-A システム番号	無効	UPANSX0.	6-23
	*有効	UPANSX1.	6-23
UPC-A アドオン	2桁のアドオン追加 有効	UPAAD21.	6-23
	* 2桁のアドオン追加 無効	UPAAD20.	6-23
	5桁のアドオン追加 有効	UPAAD51.	6-23
	* 5桁のアドオン追加 無効	UPAAD50.	6-23
UPC-A アドオン要求	*要求しない	UPAARQ0.	6-24
	要求する	UPAARQ1.	6-24
UPC-A アドオンセパレーター	無効	UPAADS0.	6-24
	*有効	UPAADS1.	6-24

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
拡張クーポンコード付き UPC-A/EAN-13	* 無効	CPNENA0.	6-24
	有効	CPNENA1.	6-24
UPC-E0	UPC-E すべての設定の初期化	UPEDFT.	6-25
UPE-E0	UPC-E0 無効	UPEEN00.	6-25
	* UPC-E0 有効	UPEEN01.	6-25
UPC-E1	* UPC-E1 無効	UPEEN10.	6-25
	UPC-E1 有効	UPEEN11.	6-25
UPC-E0およびUPC-E1の拡張	* 無効	UPEEXP0.	6-26
	有効	UPEEXP1.	6-26
UPC-E0およびUPC-E1 アドオン要求	*要求しない	UPEARQ0.	6-26
	要求する	UPEARQ1.	6-26
UPC-E0およびUPC-E1 アドオンセパレーター	無効	UPEADS0.	6-27
	*有効	UPEADS1.	6-27
UPC-E0 チェックデジット	無効	UPECKX0.	6-27
	*有効	UPECKX1.	6-27
UPC-E0 システム番号	無効	UPENSX0.	6-28
	*有効	UPENSX1.	6-28
UPC-E0 アドオン	* 2桁のアドオン追加 無効	UPEAD20.	6-28
	2桁アドオン追加 有効	UPEAD21.	6-28
	* 5桁のアドオン追加 無効	UPEAD50.	6-28
	5桁のアドオン追加 有効	UPEAD51.	6-28
EAN/JAN-13	EAN/JAN すべての設定の初期化	E13DFT.	6-29
	無効	E13ENA0.	6-29
	*有効	E13ENA1.	6-29
EAN/JAN-13 チェックデジット	無効	E13CKX0.	6-29
	*有効	E13CKX1.	6-29
EAN/JAN-13 アドオン	* 2桁のアドオン追加 無効	E13AD20.	6-30
	2桁のアドオン追加 有効	E13AD21.	6-30
	* 5桁のアドオン追加 無効	E13AD50.	6-30
	5桁のアドオン追加 有効	E13AD51.	6-30
EAN/JAN-13 アドオン要求	*要求しない	E13ARQ0.	6-30
	要求する	E13ARQ1.	6-30
EAN/JAN-13 アドオンセパレーター	無効	E13ADS0.	6-31
	*有効	E13ADS1.	6-31
ISBN 変換	*無効	E13ISB0.	6-31
	有効	E13ISB1.	6-31

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
EAN/JAN-8	EAN/JAN 8 すべての設定の初期化	EA8DFT.	6-32
	無効	EA8ENA0.	6-32
	*有効	EA8ENA1.	6-32
EAN/JAN-8チェックデジット	無効	EA8CKX0.	6-32
	*有効	EA8CKX1.	6-32
EAN/JAN-8 アドオン	* 2桁のアドオン追加 無効	EA8AD20.	6-33
	2桁のアドオン追加 有効	EA8AD21.	6-33
	* 5桁のアドオン追加 無効	EA8AD50.	6-33
	5桁のアドオン追加 有効	EA8AD51.	6-33
EAN/JAN-8 アドオン要求	*要求しない	EA8ARQ0.	6-33
	要求する	EA8ARQ1.	6-33
EAN/JAN-8 追加デジットセパレータ	無効	EA8ADS0.	6-33
	*有効	EA8ADS1.	6-33

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
MSI	MSI すべての設定の初期化	MSIDFT.	6-34
	* 無効	MSIENA0.	6-34
	有効	MSIENA1.	6-34
MSI チェックキャラクタ	*タイプ10有効、送信なし	MSICHK0.	6-34
	タイプ10有効、送信あり	MSICHK1.	6-34
MSI 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (4~48) *4	MSIMIN##.	6-35
	最大読み取り桁数 (4~48) *48	MSIMAX##.	6-35
Plessey Code	Plessey Code すべての設定の初期化	PLSDFT.	6-36
	* 無効	PLSENA0.	6-36
	有効	PLSENA1.	6-36
Plessey 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (4~48) *4	PLSMIN##.	6-36
	最大読み取り桁数 (4~48) *48	PLSMAX##.	6-36
GS1 データバー標準型 (オムニディレクショナル)	GS1 データバー標準型 すべての設定の初期化	RSSDFT.	6-37
	無効	RSEENA0.	6-37
	*有効	RSEENA1.	6-37
GS1 データバー限定型 (リミテッド)	GS1 データバー限定型 すべての設定の初期化	RSLDFT.	6-37
	無効	RSLENA0.	6-37
	*有効	RSLENA1.	6-37
GS1 データバー拡張型 (エクспанディッド)	GS1 データバー限定型 すべての設定の初期化	RSEDFT.	6-38
	無効	RSEENA0.	6-38
	*有効	RSEENA1.	6-38
GS1 データバー拡張型 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (4~74) *4	RSEMIN##.	6-38
	最大読み取り桁数 (4~74) *74	RSEMAX##.	6-38

選択項目	設定 *は初期設定値を表す	シリアルコマンド #は数値入力を表す	ページ
中国郵便	中国郵便 すべての設定の初期化	CPCDFT.	6-39
	*無効	CPCENA0.	6-39
	有効	CPCENA1.	6-39
中国郵便 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2~80) * 4	CPCMIN##.	6-39
	最大読み取り桁数 (2~80) * 80	CPCMAX##.	6-39
韓国郵便	韓国郵便 すべての設定の初期化	KPCDFT.	6-40
	*無効	KPCENA0.	6-40
	有効	KPCENA1.	6-40
韓国郵便 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (2~80) * 4	KPCMIN##.	6-40
	最大読み取り桁数 (2~80) * 48	KPCMAX##.	6-40
Codablock F	Codablock F すべての設定の初期化	CBFDFT.	6-41
	*無効	CBFENA0.	6-41
	有効	CBFENA1.	6-41
Codablock F 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~2048) * 1	CBFMIN####.	6-41
	最大読み取り桁数 (1~2048) * 2048	CBFMAX####.	6-41
Code 49	Code 49 すべての設定の初期化	C49DFT.	6-42
	*無効	C49ENA0.	6-42
	有効	C49ENA1.	6-42
Code 49 読み取り桁数	最小読み取り桁数 (1~81) * 1	C49MIN##.	6-42
	最大読み取り桁数 (1~81) * 81	C49MAX##.	6-42
Trioptic Code	*無効	TRIENA0.	6-43
	有効	TRIENA1.	6-43
GS1 エミュレーション	GS1 データバー エミュレーション	EANEMU2.	6-43
	GS1-128エミュレーション	EANEMU0.	6-43
	*GS1エミュレーション 無効	EANEMU1.	6-43
Label Code	*無効	LBLENA0.	6-44
	有効	LBLENA1.	6-44
ユーティリティ			
すべてのシンボルにコードIDプリフィクスを一時的に追加		PRECA2,BK2995C80I.	8-1
ソフトウェア番号の表示		REVINF.	8-1
データフォーマットの表示		DFMBK3?.	8-1

製品仕様

Hyperion 1300g 製品仕様

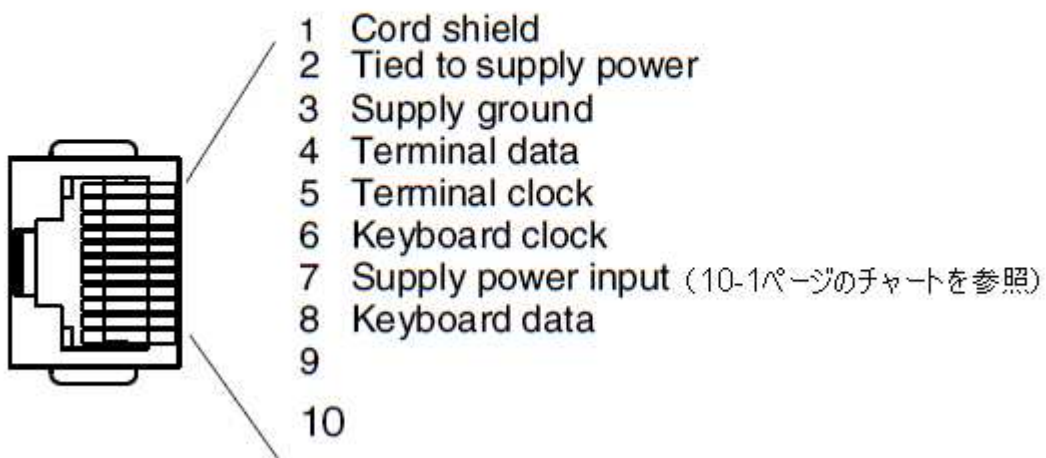
項目	仕様
機械仕様	
高さ	15cm
長さ	11.2cm
幅	7.9cm
重量	160g
電気仕様	
LED	630nm 可視赤色 LED
入力電圧	4.5~5.5VDC (イメージャー)
動作電力	200mA @ 5V
待機電力	125mA @ 5V
環境仕様	
動作温度	0°C~50°C
保存温度	-40°C~60°C
湿度	0%~95% (結露なきこと)
衝撃	1.5m の高さからコンクリート面へ 50 回落下させた衝撃に耐えること
防塵防滴シールド	IP41
対外乱光	70,000 ルクス
ESD	15kV 放電した後、正常に動作すること
読み取り性能	
スキャンパターン	シングル
移動読み取り	51cm/秒
スキャン回数	270 スキャン/秒
シンボルコントラスト	20%
ピッチ/スキュー	±65
読み取りシンボル	標準的な 1 次元バーコードおよび GS1 データバーシンボルを読み取り可能
外部電源要件 (オプション)	指定された有限電源供給ユニット (LPS)、または 5~5.2VDC 1A の出力を備えたクラス 2 タイプの電源供給ユニットを使用してください。

標準ケーブルのピン配列

キーボードウェッジ

10 Pin RJ41 Modular Plug

スキヤナに接続

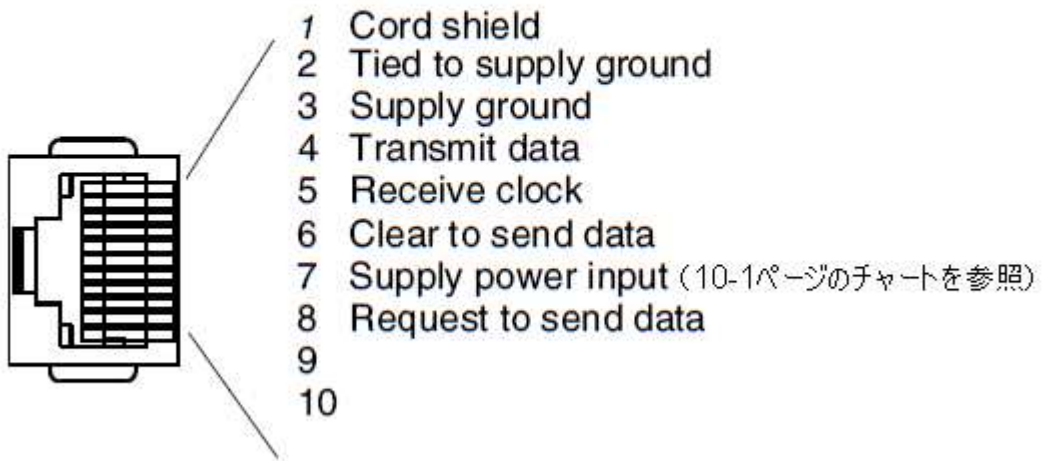


標準ケーブルのピン配列

シリアル出力

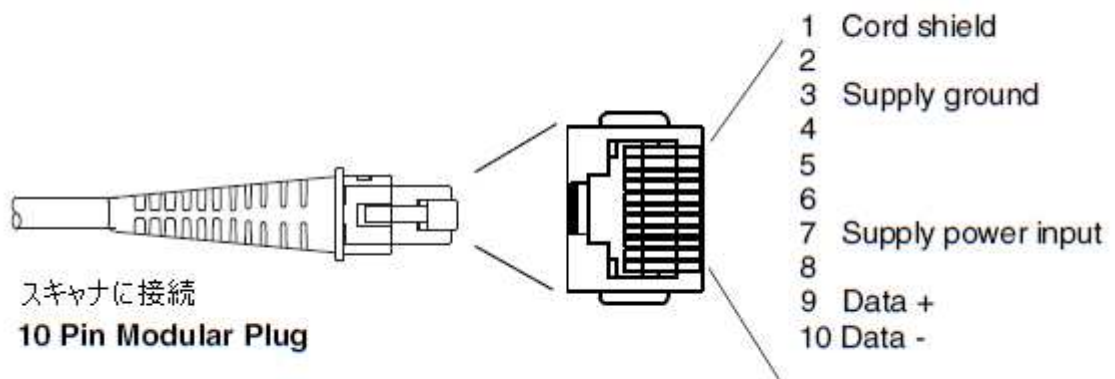
10 Pin RJ41 Modular Plug

スキヤナに接続



標準ケーブルのピン配列

USB



メンテナンス

修理

修理、アップグレードはこの製品に含まれておりません。これらのサービスは、必ず正規のサービスセンターで受けてください（[ページ 12-2](#)の「テクニカルサポート」を参照）。

メンテナンス

簡単な手入れを行うだけで、スキャナの性能を正確かつ信頼性の高い状態に維持できます。特別な保守は不要ですが、以下の定期点検によってスキャナの動作をより信頼性の高い状態に確保できます。

機器の清掃

スキャナの読み取り窓が汚れていると、読み取り性能が低下することがあります。汚れが目立つ、または十分に動作しない場合は、柔らかい布やレンズ用ティッシュを水（または水で薄めた中性洗剤）で軽く濡らして読み取り窓を拭いてください。洗剤を使用する場合は、水だけで濡らしたきれいなレンズ用ティッシュで拭き取ってください。スキャナやベースのハウジングも同様に清掃できます。



警告

スキャナを水に浸けないでください。
スキャナのハウジングに耐水性はありません。

研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。
読み取り窓を傷つけることがあります。ハウジングや窓には溶剤
（アルコールやアセトンなど）を絶対に使用しないでください。
表面や窓を傷めることがあります。

ケーブルとコネクタの点検

傷みやその他損傷の痕跡が無いインターフェースケーブルとコネクタを点検してください。ケーブルがひどく傷んでいる、またはコネクタが損傷しているとスキャナの動作を妨げる場合があります。ケーブル交換については、お買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。ケーブルの交換手順については、[ページ 11-2](#)を参照してください。

コード付きスキャナケーブル交換

標準のインターフェースケーブルは、スキャナ接続用に 10 ピンのモジュラコネクタが付属しています。ケーブルが適切に接続されると、コネクタのツメがスキャナのコネクタ内部に収まります。インターフェースケーブルは作業現場で交換できるように設計されています。

- 交換用ケーブルはハネウェルもしくはお近くの正規販売代理店よりお求めください。
- 交換用ケーブルご注文の際は、お使いのインターフェースケーブルと同じ型番をご指定ください。

インターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ります。
2. スキャナのケーブルをホストシステムから外します。
3. スキャナのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これがケーブルリリースです。
4. ペーパークリップの片方の先端を真っ直ぐに伸ばします。
5. 真っ直ぐに伸ばしたペーパークリップの先端を小さな穴に差し込んで押します。
これがコネクタのツメ部分を押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパークリップを押しのままコネクタを引き抜きます。
6. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押します。コネクタには、一方向だけに入るようにキーが付いています。所定の位置でカチッと音がします。

トラブルシューティング

電源を入れると、スキャナはその都度セルフテストを自動的に実行します。お使いのスキャナが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

電源が入っていますか？赤のエイミング照明ラインが点灯していますか？

赤のエイミング照明ラインが点灯していない場合は、以下の項目を確認してください。

- ケーブルが正しく接続されていますか？
- ホストシステムの電源が入っていますか（外部電源を使用しない場合）？
- トリガーが動作しますか？

シンボルの読み取りでスキャナに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、以下の項目を確認してください。

- シンボルに汚れ、シミ、傷、あるいは欠けがありませんか？
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていませんか？
- シンボルがスキャナで読み取り有効になっていますか？

バーコードが表示されても入力されませんか？

使用されるアプリケーションによっては、バーコードがホストシステムで正常に表示されていても、入力するために追加でキーを押す必要がある場合があります（Enter/Return キーや Tab キーなど）。

サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、スキャナはバーコードデータと必要なキー（CR など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、[ページ 4-1](#)の『プリフィクス/サフィックスの概要』を参照してください。

スキャナがバーコードを正しく読み取っていませんか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は、下記の理由が考えられます。

- スキャナが適切なターミナルインタフェースに設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストが「@es%」と表示する場合などです。正しいプラグアンドプレイバーコードでスキャナを再設定してください。[ページ 2-1](#)からのインターフェースの設定を参照してください。
- スキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取ってもホストが「A12345B」と表示する場合などです。

正しいシンボルを選択してスキャナを再設定してください。これについては第 6 章を参照してください。

スキャナがバーコードを全く読み取っていませんか？

1. 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが有効になっているか確認してください。詳細については、第 7 章を参照してください。
2. それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、[ページ 6-1](#)の **All Symbologies** (すべてのシンボルを有効) を読み取ってください。

スキャナに施されている設定内容が不明、または出荷時初期設定を復元したい場合は、[ページ 9-4](#)の **Standard Product Default** (標準製品初期設定に戻す) のバーコードを読み取ります。

カスタマーサポート

テクニカルサポート

北アメリカ/カナダ

Telephone: (800) 782-4263

E-mail: hsmnasupport@honeywell.com

ラテンアメリカ

Telephone: (803) 835-8000

Telephone: (800) 782-4263

E-mail: hsmlasupport@honeywell.com

ブラジル

Telephone: +55 (11) 5185-8222

Fax: +55 (11) 5185-8225

E-mail: brsuporte@honeywell.com

メキシコ

Telephone: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)

E-mail: soporte.hsm@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ

Telephone: +31 (0) 40 7999 393

Fax: +31 (0) 40 2425 672

E-mail: hsmeurosupport@honeywell.com

香港

Telephone: +852-29536436

Fax: +852-2511-3557

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

シンガポール

Telephone: +65-6842-7155

Fax: +65-6842-7166

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

中国

Telephone: +86 800 828 2803

Fax: +86-512-6762-2560

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

日本

Telephone: 03-6730-7344

Fax: 03-6730-7222

E-mail: aptechsupport@honeywell.com

オンラインでの製品サービス、修理およびテクニカルサポート

ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) でテクニカルサポートをご利用いただけます。

製品サービスと修理

ハネウェルは世界中のサービスセンターを通して製品に対するサービスを提供しています。保証期間内または保証期間外の製品サービスを受けられる場合は、製品返却前に以下のいずれかに連絡し、RMA (Return Material Authorization) 番号を取得してください。

北アメリカ

Telephone: (800) 782-4263
E-mail: hsmnaservice@honeywell.com

ラテンアメリカ

Telephone: (803) 835-8000
Telephone: (800) 782-4263
Fax: (239) 263-9689
E-mail: laservice@honeywell.com

ブラジル

Telephone: +55 (11) 5185-8222
Fax: +55 (11) 5185-8225
E-mail: brservice@honeywell.com

メキシコ

Telephone: 01-800-HONEYWELL (01-800-466-3993)
Fax: +52 (55) 5531-3672
E-mail: mxservice@honeywell.com

ヨーロッパ、中東、アフリカ

Telephone: +31 (0) 40 2901 633
Fax: +31 (0) 40 2901 631
E-mail: euroservice@honeywell.com

香港

Telephone: +852-29536436
Fax: +852-2511-3557
E-mail: apservice@honeywell.com

シンガポール

Telephone: +65-6842-7155
Fax: +65-6842-7166
E-mail: apservice@honeywell.com

中国

Telephone: +86 800 828 2803
Fax: +86-512-6762-2560
E-mail: apservice@honeywell.com

日本

Telephone: +81-3-6730-7344
Fax: +81-3-6730-7222
E-mail: apservice@honeywell.com

条件付保証

Honeywell International Inc.（以下ハネウエル）は、出荷時にその製品の材料および製造品質に欠陥がなく、お買い上げいただいた製品に適用されるハネウエルの公式な仕様に適合することを保証致します。ただし、以下の場合、ハネウエル社の製品であってもこの保証は対象外となります。

（i）設置または使用方法が不適切、ii）正しい保守、サービス、および清掃手順に従わなかった場合を含めた事故や不注意での損傷、または（iii）以下の結果損傷した場合；（A）お客様または第三者が行った変更や改造、（B）インターフェース接続への過大な電圧や電流、（C）静電気または静電気放電、（D）指定の動作パラメータを超える条件での使用、（E）ハネウエルまたは正規代理店以外が行った製品の修理や整備

この保証期間とは、出荷時からハネウエルが公式に示した期間（「保証期間」）を指し、ご購入時より製品に対して適用されます。欠陥品は、保証期間内にハネウエルの工場または正規サービスセンターに必ず返却し、点検を受けてください。ただし、RMA（Return Material Authorization）番号が無ければ、ハネウエルはどんな製品も受け付けません。RMA 番号は、ハネウエルに連絡すれば取得できます。保証期間内にハネウエルまたは正規サービスセンターに製品が返却され、材料または製造品質の欠陥によって製品が故障したことを確認した場合、ハネウエルは自社の選択によって製品を無償で修理または交換致します。ただし、ハネウエルへの返却送料はお客様のご負担になります。

該当する法律によって規定されている場合を除き、上記の保証は、明示的であっても暗黙のものであっても、また口頭であっても書面であっても限定されることなく、特定の目的に対する商品性や適合のあらゆる暗黙の保証を含む他のあらゆる契約に代わるものです。

この保証によるハネウエルの賠償責任とお客様が受けられる唯一の補償は、欠陥品の修理または交換に限られません。いかなる場合も、ハネウエルは直接的、間接的、あるいは結果的な損害には一切責任を負いません。また、ここでご購入いただいた製品に関して生じたハネウエルの賠償額は（そうした賠償責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求によるものであっても関係なく）、その製品のためにハネウエルにお支払いいただいた実際の金額を限度とします。これらの賠償責任の限度は、そのような、けが、損失、損害などの可能性についてハネウエルが知らされていた場合であっても有効です。一部の州、地区、あるいは国などでは、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていません。その場合は、上記の制限または除外が適用にならないことがあります。

この条件付保証項目はすべて区分されており、分離が可能です。つまり、いずれかの条項が無効のまま実施できない場合でも、その決定は他の項目を実施する有効性には関係ありません。この製品の製造者自身が製造または販売していない周辺装置を使用した場合には、この保証は無効になります。この周辺装置には、ケーブル、電源、クレイドル、およびドッキングステーションが含まれます。ハネウエルは、これらの保証を製品の最初のエンドユーザーにのみ適用します。これらの保証は譲渡できません。

Hyperion 1300g の条件付保証期間は、5 年間です。

補足資料

シンボルチャート

シンボル	AIM ID	可能なAIM ID モディファイアー (m)	
All Symbologies			(0x99)
China Post]X0		Q (0x51)
Codabar]Fm	0-1	a (0x61)
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q (0x71)
Code 11]H3		h (0x68)
Code 128]Cm	0, 1, 2, 4	j (0x6A)
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)]X0		< (0x3C)
Code 39 (supports Full ASCII)			
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l (0x6C)
Code 93 and 93i]Gm	0-9, A-Z,	
EAN-13 (including Bookland EAN)]E0		d (0x64)
EAN-13 with Add-On]E3		d (0x64)
EAN-13 with Extended			
EAN-8]E4		D (0x44)
GS1 Databar]eM	0	y (0x79)
GS1-128]C1		l (0x49)
Interleaved 2 of 5]Im	0, 1, 3	e (0x65)
Matrix 2 of 5]X0		m (0x6D)
MSI]Mm	0	g (0x67)
Plessey code]P0		n (0x6E)
Straight 2 of 5 IATA]Rm	0, 1, 3	f (0x66)
Straight 2 of 5 Industrial]S0		f (0x66)
UPC-A]E0		c (0x63)
UPC-A with Add-On]E3		c (0x63)
UPC-A with Extended Coupon Code]E3		c (0x63)
UPC-E]E0		E (0x45)
UPC-E with Add-On]E3		E (0x45)
UPC-E1 (obsolete)]X0		E (0x45)

注意: 「m」は、AIM モディファイアーのキャラクタを示します。AIM モディファイアーキャラクタの詳細については、「International Technical Specification」の「Symbology Identifiers」を参照してください。

特定のシンボルに対するプリフィックス/サフィックスの入力は、すべてのシンボルを含む場合（All Symbologies, 99）より優先されます。

ASCII 変換チャート (コードページ 1252)

注意: この表は、米国キーボードに適用されます。キャラクタによっては、国コード/PC の地域設定によって異なる場合があります。

印刷不可能なキャラクタ					
DEC	HEX	キャラクタ (コード)	DEC	HEX	キャラクタ (コード)
0	0	NULL	16	10	DATA LINK ESCAPE (DLE)
1	1	START OF HEADING (SOH)	17	11	DEVICE CONTROL 1 (DC1)
2	2	START OF TEXT (STX)	18	12	DEVICE CONTROL 2 (DC2)
3	3	END OF TEXT (ETX)	19	13	DEVICE CONTROL 3 (DC3)
4	4	END OF TRANSMISSION (EOT)	20	14	DEVICE CONTROL 4 (DC4)
5	5	END OF QUERY (ENQ)	21	15	NEGATIVE ACKNOWLEDGEMENT (NAK)
6	6	ACKNOWLEDGE (ACK)	22	16	SYNCRONIZE (SYN)
7	7	BEEP (BEL)	23	17	END OF TRANSMISSION BLOCK (ETB)
8	8	BACKSPACE (BS)	24	18	CANCEL (CAN)
9	9	HORIZONTAL TAB (HT)	25	19	END OF MEDIUM (EM)
10	A	LINE FEED (LF)	26	1A	SUBSTITUTE (SUB)
11	B	VERTICAL TAB (VT)	27	1B	ESCAPE (ESC)
12	C	FORM FEED (FF)	28	1C	FILE SEPARATOR (FS) RIGHT ARROW
13	D	CARRIAGE RETURN (CR)	29	1D	GROUP SEPARATOR (GS) LEFT ARROW
14	E	SHIFT OUT (SO)	30	1E	RECORD SEPARATOR (RS) UP ARROW
15	E	SHIFT IN (SI)	31	1E	UNIT SEPARATOR (US) DOWN ARROW

印刷可能なキャラクタ								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
32	20	SPACE	64	40	@	96	60	'
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	DEL

拡張 ASCII キャラクタ								
DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ	DEC	HEX	キャラクタ
128	80	€	171	AB	«	214	D6	Ö
129	81		172	AC	¬	215	D7	×
130	82	,	173	AD	-	216	D8	∅
131	83	f	174	AE	®	217	D9	Û
132	84	„	175	AF	ˉ	218	DA	Ú
133	85	...	176	B0	°	219	DB	Û
134	86	†	177	B1	±	220	DC	Ü
135	87	‡	178	B2	²	221	DD	Ý
136	88	^	179	B3	³	222	DE	ƒ
137	89	‰	180	B4	´	223	DF	ß
138	8A	Š	181	B5	μ	224	E0	à
139	8B	‹	182	B6	¶	225	E1	á
140	8C	Œ	183	B7	·	226	E2	â
141	8D		184	B8	,	227	E3	ã
142	8E	Ž	185	B9	¹	228	E4	ä
143	8F		186	BA		229	E5	å
144	90		187	BB	»	230	E6	æ
145	91	‘	188	BC	¼	231	E7	ç
146	92	’	189	BD	½	232	E8	è
147	93	“	190	BE	¾	233	E9	é
148	94	”	191	BF	¿	234	EA	ê
149	95	•	192	C0	À	235	EB	ë
150	96	—	193	C1	Á	236	EC	ì
151	97	—	194	C2	Â	237	ED	í
152	98	~	195	C3	Ã	238	EE	î
153	99	™	196	C4	Ä	239	EF	ï
154	9A	š	197	C5	Å	240	F0	ð
155	9B	›	198	C6	Æ	241	F1	ñ
156	9C	œ	199	C7	Ç	242	F2	ò
157	9D		200	C8	È	243	F3	ó
158	9E	ž	201	C9	É	244	F4	ô
159	9F	ÿ	202	CA	Ê	245	F5	õ
160	A0		203	CB	Ë	246	F6	ö
161	A1	ï	204	CC	Ì	247	F7	÷
162	A2	ø	205	CD	Í	248	F8	ø
163	A3	£	206	CE	Î	249	F9	ù
164	A4	¤	207	CF	Ï	250	FA	ú
165	A5	¥	208	D0	Ð	251	FB	û
166	A6	¡	209	D1	Ñ	252	FC	ü
167	A7	§	210	D2	Ò	253	FD	ý
168	A8	¨	211	D3	Ó	254	FE	þ
169	A9	©	212	D4	Ô	255	FF	ÿ
170	AA	ª	213	D5	Õ			

印刷されたバーコードのコードページマッピング

コードページは、キャラクタに対するキャラクタコードの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタで表示されない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、バーコードが作成されたときのコードページを選択してください。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。

注意: コードページオプションが利用できるのは、Code 39、Code 93、および Code 128 です。

コードページ	標準	内容
1	CP ISO646	
2 (初期設定)	ISO 2022	自動置換キャラクタ
3	CP Binary	
82	ISO 2022 11 Swe	スウェーデン置換キャラクタ
83	ISO 2022 69 Fra	フランス/ベルギー置換キャラクタ
81	ISO 2022 25 Fra	フランス/ベルギー置換キャラクタ
84	ISO 2022 11 Ger	ドイツ置換キャラクタ
85	ISO 2022 11 Ita	イタリア置換キャラクタ
86	ISO 2022 11 Swi	スイス置換キャラクタ
87	ISO 2022 11 UK	イギリス置換キャラクタ
88	ISO 2022 11 Dan	デンマーク置換キャラクタ
89	ISO 2022 11 Nor	ノルウェー置換キャラクタ
90	ISO 2022 11 Spa	スペイン置換キャラクタ

サンプルシンボル

UPC A



Interleaved 2 of 5 (ITF)



Code 128



JAN-13



JAN-8



UPC - E



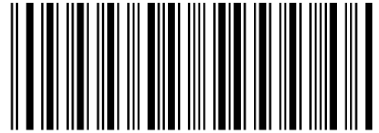
サンプルシンボル

Code 39



BC321

Codabar



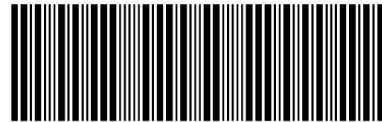
D9998924991D

Code 93



4422457N
Matrix 2 of 5

Straight 2 of 5 Industrial



1234567890

GS1-Databar



(01)12345678901231

プログラミングチャート



KAK

A



KCK

C



KEK

E



MNUSAV.

Save (保存)



KBK

B



KDK

D



KFK

F



MNUABT.

Discard (破棄)

注意: 文字または数字 (Save を読み取る前に) をスキャンしエラーした場合は、Discard (破棄) を読み取り、正確に文字または数字をもう一度スキャンして、Save (保存) を読み取ってください。

プログラミングチャート



K0K

0



K2K

2



K4K

4



K6K

6



K8K

8



K1K

1



K3K

3



K5K

5



K7K

7



K9K

9

Honeywell Scanning & Mobility

9680 Old Bailes Road
Fort Mills, SC 29707

ハネウェルスキャニング&モビリティ

〒105-0022 東京都港区海岸 1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー20階

www.honeywellaidc.com